上野国分寺参道遺跡

群馬町営国府南部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1997

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

上野国分寺参道遺跡

群馬町営国府南部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1 9 9 7

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

北に赤城山、榛名山を控え、遠くに谷川連邦を望む。南には太陽の輝きをさんさんと浴びる広い平野。東に利根川の青い激流。西には浅間山の白い頂を背景に上野国府に向かう古代東山道。まるで、四神相応の地をほうふつさせるようなこの地の一角に上野国分寺参道遺跡があります。

遺跡の名称は、土地の人々に代々言い伝えられてきた通称国分寺参道からとったものです。国分寺参道と称する場所は、国分寺の南側にあり、国分寺に向かって畑地の区割りが道のように細長く続いています。

近くには、上野国分寺跡、国分尼寺跡、推定上野国府跡等の古代重要遺跡が散在しています。竪穴住居を中心に生活を営んでいた当時の人々が、この地を訪れた時どんな感慨を持ったでしょうか。

広い寺域に築地を巡らし、瓦を屋根にのせた金堂、講堂、七重塔等の建物群。広大な伽藍や推定63メートル前後の高さを持つ七重塔を見た時の驚きは如何ばかりであったことでしょう。平坦な土地にこつぜんと現れた七重塔の高さと広大な伽藍に対し、まさに畏敬の念を持って拝んだことと思います。参道を含めた寺の周辺も国分寺との関連の深い生活があったことは想像できます。

この度、群馬町で町営国府南部土地改良事業を行うにあたり、事前に前橋市分についての発掘調査を行いました。

この遺跡は、古代の人々が畏敬の念を持って信仰した寺への参道と予想される場所を含む所です。道路部分だけの線の調査でしたが、国分寺を解明できる資料が少しでも発見されればとの思いで調査を行いました。資料の多くは平安時代のものであり、国分寺の参道を実証できませんでしたが、国分寺の衰退との関連を探る資料は得られたのではないかと思います。ご一読いただき、ご指導をいただければ幸いと願っています。

平成９年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　中　西　誠　一

例　　言

1．本書は、群馬町営国府南部土地改良事業に伴う上野国分寺参道遺跡発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市元総社町字西川1530番地先に所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中西誠一が、群馬町長 清水稔と委託契約を締結し実施した。調査の概要は以下のとおりである。

発掘・整理担当者	齊藤仁志（前橋市埋蔵文化財発掘調査団　発掘調査係）
	吉田聖二（前橋市埋蔵文化財発掘調査団　発掘調査係）
掘調査期間	平成８年９月19日～平成８年12月20日
整理・報告書作成期間	平成８年12月21日～平成９年３月25日
調査面積	3,635㎡

4．本書の原稿執筆・編集は齊藤・吉田が行った。整理作業をはじめ図版作成は、赤石忠彦・石原義夫・岩木操・岸フクエ・渡木秋子・湯浅たま江・湯浅道子の各整理作業員が行った。

5．発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の 1/2.5 万地形図（前橋市）を使用した。

3．本遺跡の略称は８Ａ77である。

4．各遺構および遺構施設の略称は次のとおりである。

Ｈ…竪穴住居址　　Ｄ…土坑　　Ｗ…溝址　　Ｉ…井戸址　　Ｐ…柱穴（ピット）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構	住居址・土坑… 1/80	竈断面図… 1/40	溝址… 1/100
	全体図… 1/500		
遺物	1/1、1/3、1/4、2/3		

6．スクリーントーンの使用は次のとおりである。

遺構平面図	粘土…		
遺構断面図	火山灰…	構築面…	
遺物実測図	施釉範囲…	黒色処理…	炭化物（スス付着など）…
	須恵記断面…	灰釉陶器断面…	擦痕…

目　次

序 …… i

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境 …… 1

Ⅲ 調査の経過 …… 3

Ⅳ 層序 …… 3

Ⅴ 遺構と遺物 …… 4

Ⅵ 成果と問題点 …… 8

図版

PL. 1 遺跡全景　住居址（H－2・4）
2 A・B・E区全景
住居址（H－9・15・16・19・20）
3 住居址（H－12・21・25）
4 住居址（H－22・28・33・39）
PL. 5 H－1・2・4・7・9・12号住居址出土土器
6 H－9・11・12・13・15・16・17・19・21・25号
住居址出土土器
7 H－22・25・29・31・33・35・40号住居址出土土器
8 金属製品、瓦

挿図

頁
Fig. 1 上野国分寺参道遺跡と周辺遺跡図 …… 2
2 上野国分寺参道遺跡標準土層図 …… 3
3 遺跡・遺構全体図 …… 10
4 H－1、2、4、9号住居址 …… 12
5 H－5・6・7、8号住居址 …… 13
6 H－3、10、11、15号住居址 …… 14
7 H－12・13、14・23・38号住居址、D－2 …… 15
8 H－16、17、18、21号住居址 …… 16
9 H－19・20、22・28号住居址 …… 17
10 H－24、25、26・27号住居址 …… 18
11 H－29・30、31、32、33、40号住居址 …… 19
Fig. 12 H－34、35、36、37、39・41号住居址 …… 20
13 W－1、2、D－1、2、I－1 …… 21
14 H－1・2・4・5・7・9～12号
住居址出土の土器 …… 22
15 H－12号住居址出土の土器 …… 23
16 H－12・13・15・16・17・19・21号
住居址出土の土器 …… 24
17 H－22・25・28・29・31・33・35号
住居址出土の土器 …… 25
18 H－35・37・40号
住居址出土の土器、金属製品、石製品 …… 26
19 瓦 …… 27

表

頁
Tab. 1 上野国分寺参道遺跡遺構一覧表 …… 4
2 土器観察表（古墳～平安時代） …… 5
3 金属製品観察表 …… 7
Tab. 4 石器・石製品観察表 …… 7
5 瓦観察表 …… 7

Ⅰ　調査に至る経緯

上野国分寺参道遺跡は、平成８年度ふるさと総合整備事業の一つである群馬町営国府南部地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成８年９月から12月にかけて実施された。発掘調査に至る経緯は以下のとおりである。

群馬町より前橋市教育委員会に、国府南部地区の土地改良を計画したことに伴い、平成７年７月、同地区での土木工事を実施したい旨、連絡があった。さらに同年10月、同地区内の前橋市域分について埋蔵文化財調査に関する事前協議がなされた。該当地域は、史跡上野国分寺跡から南方約200ｍと近接しており遺跡の重要性は推定できる。群馬町の計画する土地改良事業の公共性から協議を行い、その結果、土地改良事業に先立ち同遺跡の埋蔵文化財調査を実施することになった。

平成８年５月、開発予定地及び面積等について再協議が行われ、その後の手続きは前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団が中心となって行った。

平成８年９月５日、群馬町長と前橋市埋蔵文化財発掘調査団長との間で発掘調査の委託契約が締結され、同遺跡の埋蔵文化財発掘調査を開始するに至った。なお、調査費用の内、農家個人負担分の13％については国県補助事業「市内遺跡」で費用負担を行った。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

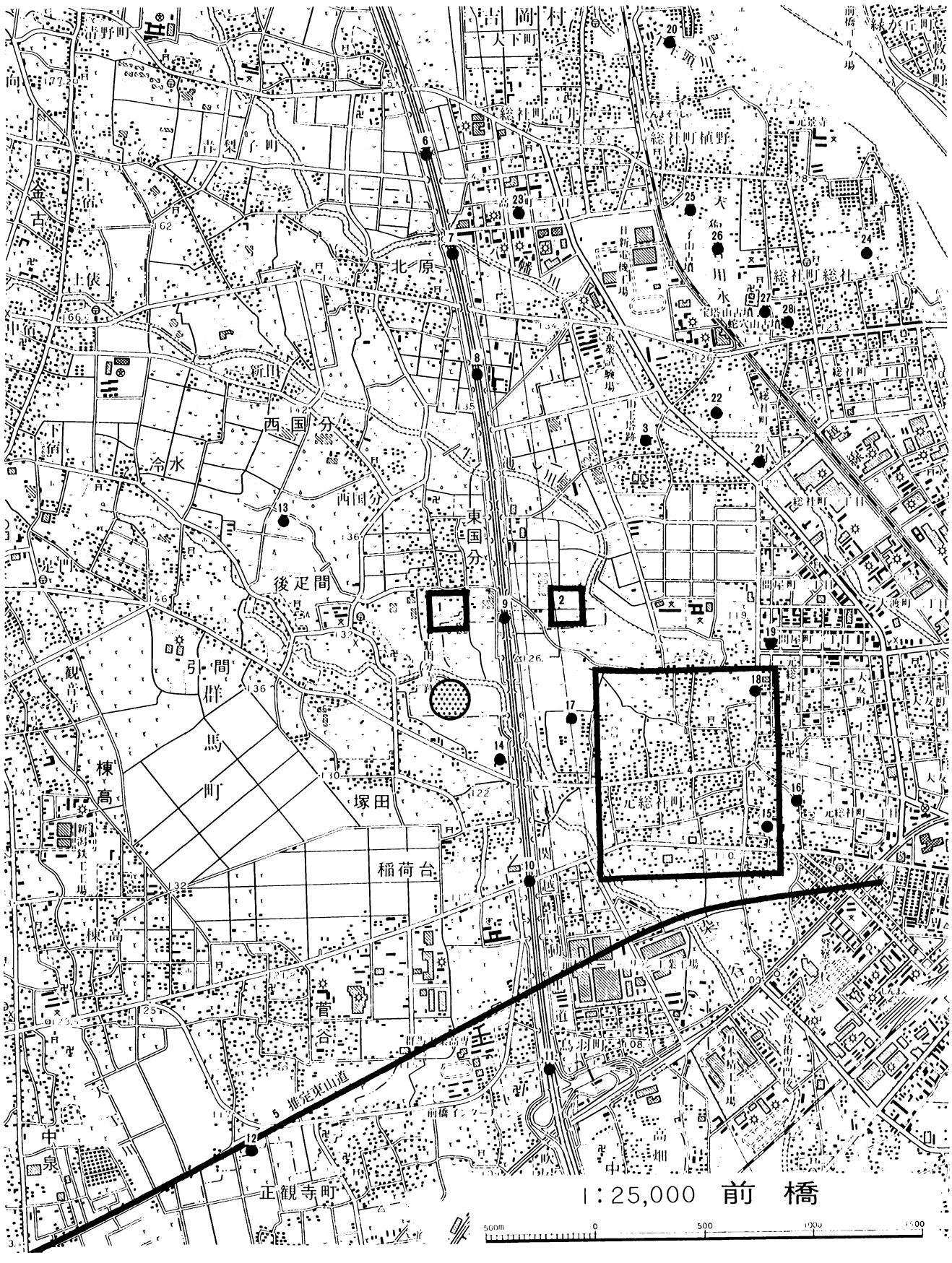
上野国分寺参道遺跡は、前橋市街地（県庁付近）から利根川を隔てて、西約４kmの地点、前橋市と群馬町との境に所在する。遺跡地の地番は前橋市元総社町字西川1530番地先である。

染谷川を挟み、上野国分寺跡のすぐ南方に位置する本遺跡は、利根川右岸の榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地が前橋台地に移行する付近に当たる。本遺跡の南方には県道前橋足門線が東西に、東方には関越自動車道が南北に走る。本遺跡の所在する元総社町は、近年住宅の建設が急増したものの、本遺跡周辺は、まだ農地が広がっており、のどかな景観を保っている。しかし、農業の形態は時代とともに変化し、かつて養蚕のための桑畑が広がっていた場所に、現在は数多くのビニルハウスが建てられ都市向けの野菜栽培が盛んに行われている。そして、本遺跡内には、この畑地の中に道のように細長く上野国分寺へ向かって続く区割りがみられ、地元ではこれを国分寺参道と称している。

今回の調査によって検出された主な遺構は、ほとんど平安時代の遺構であるが、周辺の遺跡に目を向けると、本遺跡を含む地域には、縄文時代から中世に至る数多くの遺跡が散在する。本遺跡の北東にあたる上野国分（僧）寺・尼寺中間地域遺跡群では、縄文時代中期から中世に至る住居・集落跡が検出されている。

古墳時代以降の遺跡としては、本遺跡より南西3.5kmに位置する５世紀後期から６世紀初期の豪族の居館あるいは祭祀施設と考えられる三ツ寺Ⅰ遺跡、北東2.5kmには６世紀前半の大型前方後円墳の王山古墳から県内最終末期となる宝塔山古墳、蛇穴山古墳まで続く総社古墳群が広がる。また、古墳群の南西近く、本遺跡からみると北東約1.5kmには、白鳳期の建立とされる山王廃寺跡がある。さらに本遺跡の東方1.5kmの前橋市元総社町一帯は、上野国府の推定地と考えられている。そして、本遺跡周辺には後疋間遺跡・鳥羽遺跡・塚田村東遺跡等の古墳時代から奈良・平安時代の遺跡も枚挙に暇がない。

このように本遺跡をとりまく地域は、縄文時代から人々の生活の場であり、特に５世紀後期にこの地域で最も早くヤマトの権力とのつながりを成立させていた有力豪族の勢力地となり、また、その後の中央政権との関係をもつ上毛野氏の本拠地の一部ともいえる地域に位置するといえる。



1．上野国分寺跡　2．上野国分尼寺跡　3．山王廃寺跡　4．上野国府推定地　5．推定東山道　6．下東西遺跡　7．北原遺跡　8．国分境遺跡　9．国分寺中間地域遺跡　10．鳥羽遺跡　11．中尾遺跡　12．菅谷遺跡　13．後疋間遺跡　14．塚田村東遺跡　15．元総社小学校校庭遺跡　16．元総社明神遺跡　17．草作遺跡　18．閑泉樋南遺跡　19．閑泉樋遺跡　20．桜ケ丘遺跡　21．昌楽寺迴村東遺跡　22．大屋敷遺跡　23．柿木遺跡　24．遠見山古墳　25．総社二子山古墳　26．愛宕山古墳　27．宝塔山古墳　28．蛇穴山古墳

Fig. 1　上野国分寺参道遺跡と周辺遺跡図

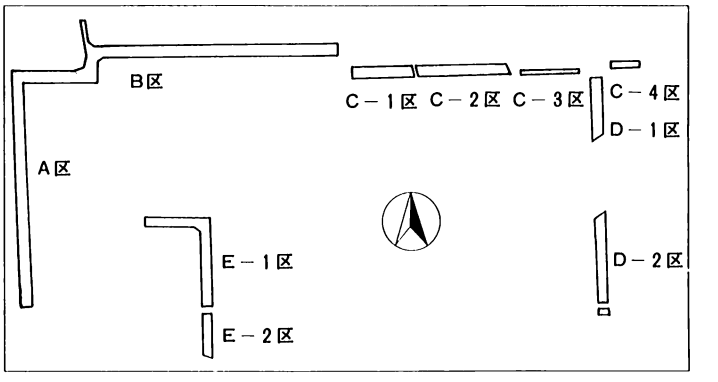
Ⅲ　調　査　経　過

平成８年９月５日に埋蔵文化財発掘調査の委託契約が締結されたことに基づき、９月19日より作業の効率化を鑑み重機による表土の排除作業を開始した。調査区3,635㎡を地形や現道の関係からＡ～Ｅ区に分けることとした。表土掘削を開始したところ、Ａ・Ｂ区については当初の予想より遺構面がかなり深くなることが判明したので、遺構面の確認のため幅約50㎝のサブトレンチを入れることとした。その結果、住居址は黒色粘質土中に構築されていること、Ｃ・Ｄ区はＣ－４区を除いて住居址の痕跡はみあたらないこと、Ｅ区は黒色粘質がやや弱いこと等が分かり、発掘調査の準備が整った10月15日、Ａ区より本格的な調査にとりかかることとした。

隣接する農地のビニルハウス移転のため、Ｂ区の調査を途中で中断し、11月よりＥ区の調査に入った。ここは遺物が多く、また重複する住居址も多いことから予定よりも作業に手間取った。Ｄ区については、表土掘削で南北に走る溝状遺構があることが判明していたが、その範囲確認のための深堀をかなり深くする必要があり、埋め戻しを含めた安全面を考え、中旬に集中して調査することとした。Ｃ－２区は、地元では上野国分寺へ至る参道があったといわれてきた場所であるため慎重な調査を行ったが、特に参道に関連するような痕跡は認められなかった。しかし、参道の可能性を匂わすように他の土地に比べ一段低くなっていること等から、Ｂ区の調査が終了した段階で幅50㎝のサブトレンチを入れ再調査をすることとしたが、参道に関連する遺構等は確認できなかった。

12月はＢ・Ｃ－２区の調査を中心に行った。その後遺跡全体写真撮影、遺跡全体測量、埋め戻し等に入り12月20日には現地発掘調査を完了させた。

その後、平成９年１月６日から３月25日まで、城南収蔵庫整理作業室において整理作業を行い、すべての作業を完成させるはこびとなった。



調査区設定略図

Ⅳ　層　　序

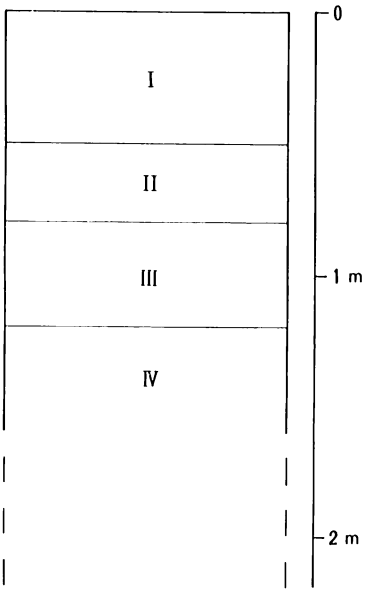


Fig. 2　上野国分寺参道遺跡標準土層図

本遺跡においては、ほとんどの遺構はロームを主体とした地山を掘り込んで構築されているが、この状況を示す良好な地点が得られなかったため、ここではＡ・Ｂ区を中心とする、現地表面から遺構の床面までの基本的な層序を記録した。Ｃ・Ｄ区は現地表面から地山までの層厚はきわめて薄いうえに、耕作などによりカクランがひどく確認が困難をきわめた。

Ⅰ層　暗褐色粗砂層　層厚50㎝　耕作土。浅間Ｂ・Ｃ両軽石を含む。

Ⅱ層　極暗褐色細砂層　層厚30㎝　土器・瓦包含層。浅間Ｃ軽石を含む。

Ⅲ層　黒褐色細砂層　層厚40㎝　浅間Ｃ軽石を含む。多くの遺構がこの上部でプラン確認できた。

Ⅳ層　黄褐色ローム層　層厚不明　ローム漸位層と水成堆積のローム層とから成る。多くの遺構がこの層を掘り込んで構築されている。

V 遺構と遺物

Tab. 1 上野国分寺参道遺跡遺構一覧表

住居址一覧表

遺構名(調査区)	位置		規模(m)東西×南北	面積(㎡)	壁高	主軸方向	竈	遺物	時期	Fig
H－1(A)	X16	Y47～48	(1.81)× 3.49	(5.0)	19cm	N－8°－E	未確認	カワラケ、坏、瓦	11C前	4
H－2(A)	X16	Y46	(1.64)× 3.22	(4.4)	20cm	N－6°－E	未確認	カワラケ、坏、瓦、鉄	11C前	4
H－3(A)	X16	Y41～42	(0.86)× 3.50	(2.4)	14cm	N－3°－W	未確認	坏、瓦	11Cか	6
H－4(A)	X15	Y39～40	(2.70)× 5.16	(12.0)	23cm	N-100°－E	東辺南寄	椀、坏、瓦、鉄	10C後	4
H－5(A)	X15	Y36～37		(0.5)		N-102°－E	東辺南寄	坏、瓦、鉄	10C前	5
H－6(A)	X15	Y36～37	(2.48)× 5.06	(11.5)	28cm	N－83°－E	東辺中央	椀、瓦、鉄	9C後	5
H－7(A)	X14～15,	Y35～36	(2.54)× 4.24	(11.7)	30cm	N－98°－E	東辺南寄	カワラケ、椀、瓦、鉄	10C後	5
H－8(A)	X15	Y34～35	(3.00)× 4.24	(16.8)	21cm	N-125°－E	東辺南寄	椀、坏、瓦、鉄、砥石	9C後か	5
H－9(A)	X15	Y26～27	(2.28)× 4.00	(9.1)	25cm	N－96°－E	東辺南寄	坏、瓦、鉄	10C後	4
H－10(A)	X15～16,	Y24	2.85 × 3.95	9.8	26cm	N－97°－E	東辺南寄	カワラケ、椀、瓦	10C後	6
H－11(B)	X16～17,	Y22～23	3.86 × 3.80	12.0	27cm	N－62°－E	東辺中央	椀、坏、甕、壺、瓦	9C後	6
H－12(E)	X38～39,	Y48～49	(1.64)×(3.12)	(3.8)	25cm	N-115°－E	東　辺	椀、坏、甕、羽釜、瓦、鉄、砥石	9C後	7
H－13(E)	X38～39,	Y47～48	(4.06)× 4.38	(13.9)	49cm	N-119°－E	東辺南寄	椀、坏、甕、瓦、鉄	10C前	7
H－14(A)	X15～16,	Y38～40	(3.06)×(7.08)	(13.5)	30cm	N－17°－E	未確認	椀、瓦、鉄	10C	7
H－15(E)	X38～39,	Y47～48	(1.60)×(3.18)	(4.5)	42cm	N－97°－E	東辺南寄	坏、瓦、鉄	10C前	6
H－16(E)	X38～39,	Y40～41	3.06 × 3.52	10.4	62cm	N－93°－E	東辺南寄	椀、甕、瓦、鉄	9C後	8
H－17(E)	X38～39,	Y40	2.46 ×(2.94)	(6.6)	34cm	N－82°－E	東　辺	坏、瓦、鉄	9C後	8
H－18(E)	X39	Y40～41	(1.50)× 3.68	(4.8)	55cm	N－4°－W	未確認	坏、瓦	不明	8
H－19(E)	X38～39,	Y52	(1.15)×(3.82)	(5.3)	13cm	N－99°－E	東辺南寄	椀、坏、甕、瓦、鉄	9C後	9
H－20(E)	X39	Y51～52	(3.35)×(4.30)	(13.5)	31cm	N-113°－E	東辺南寄	坏、瓦	9C後	9
H－21(E)	X38～39,	Y42～43	2.76 × 3.56	9.4	48cm	N－85°－E	東辺南寄	坏、瓦、鉄	11C前	8
H－22(B)	X16～17,	Y22～23	(5.14)×(5.06)	(21.5)	69cm	N－83°－E	東辺南寄	皿、坏、瓦、鉄	11C前	9
H－23(A)	X16	Y37～38	(0.95)× 4.00	(2.8)	18cm	N－9°－E	未確認	坏、羽釜、瓦、鉄	10C前	7
H－24(B)	X30～31,	Y18～19	3.20 ×(2.60)	(7.3)	31cm	N－99°－E	東辺中央	坏、羽釜、瓦	10C前	10
H－25(B)	X40～41,	Y19～20	4.74 ×(3.34)	(12.1)	44cm	N－76°－E	東　辺	坏、甕、坏蓋	6中～6後	10
H－26(B)	X39～40,	Y19	3.10 ×(2.58)	(8.2)	31cm	N－87°－E	東辺南寄	坏、瓦	11C前	10
H－27(B)	X39～40,	Y19～20	(3.16)× 3.88	(10.9)	29cm	N－98°－E	東辺中央	坏、羽釜、瓦	9C後	10
H－28(B)	X21～22,	Y22～23	(3.08)×(3.82)	(11.7)	69cm	N－91°－E	東　辺	椀、坏、瓦、鉄	10C後	9
H－29(B)	X54	Y19	(2.48)×(1.04)	(2.4)	12cm	N－87°－E	東辺南寄	坏、瓦	9C後	11
H－30(B)	X53～54,	Y19	2.48 ×(2.00)	(5.1)	12cm	N－88°－E	東　辺	坏、瓦	9C後	11
H－31(B)	X51～52,	Y20	3.10 ×(1.12)	(3.4)	29cm	N－95°－E	未確認	坏、瓦	10C前	11
H－32(B)	X48	Y19～20	2.24 ×(2.77	(7.2)	29cm	N－89°－E	東　辺	坏、羽釜、瓦	10C後	11
H－33(E)	X33～34,	Y40～41	2.74 ×(2.98)	(9.7)	20cm	N－90°－E	東辺南寄	椀、坏、羽釜、瓦	10C前	11
H－34(E)	X32～33,	Y40	(2.04)×(2.36)	(5.2)	2cm	N－92°－E	東　辺	坏、羽釜	10C後	12
H－35(E)	X34～35,	Y40～41	3.32 ×(2.82)	(8.8)	23cm	N－92°－E	未確認	椀、坏、甕、瓦、鉄	11Cか	12
H－36(E)	X34	Y41		(0.3)				坏、甕、瓦	不明	12
H－37(B)	X44～45,	Y19～20	2.78 × 2.96	(7.8)	12cm	N－91°－E	東　辺	蓋、坏、瓦	9Cか	12
H－38(A)	X16	Y38～39	(1.48)×(3.12)	(3.3)	7cm	N－10°－E	未確認		不明	7
H－39(C)	X99～100,	Y23	3.18 ×(2.50)	(7.5)	16cm	N－89°－E	東　辺	坏、瓦、鉄	9C後	12
H－40(C)	X99	Y23～24	2.20 ×(0.98)	(1.8)	22cm	N－94°－E	未確認	坏、瓦	10C前	11
H－41(C)	X100	Y23～24	(1.90)×(1.12)	(2.7)	23cm	N－89°－E	未確認	坏、瓦	9C後	12

注）（　）内の数値は現存値。

溝址一覧表

遺構名(調査区)	位置		方位	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	長さ(m)	備考	時期	Fig
W－1(D)	X92～93,	Y41～47	N－98°－E	0.8～3.2	0.4～1.0	0.52	東西 4.4　南北51.5		中世	13
W－2(E)	X38～40,	Y49～51	N－87°－E	7.1～7.9	0.7～0.9	0.45	東西 9.9		不明	13

土坑一覧表

遺構名(調査区)	位置		形状	規模(m)長径×短径×深さ	重複・備考
D－1(A)	X15～16,	Y24～25	楕円形	420×100× 43	H－9
D－2(E)	X26～27,	Y19	円　形	180×166× 36	

遺構名(調査区)	位置		形状	規模(m)長径×短径×深さ	重複・備考
D－3(B)	X39	Y48～49	楕円形	246×196×111	H－13

Tab. 2　土器観察表（古墳～平安時代）

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig.
1	H－1	カワラケ	10.2	2.7	①中粒②良好③灰④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	内面・外面に黒色処理。口縁部にスス付着。	14
2	H－2	カワラケ	10.1	3.0	①中粒②良好③橙④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		14
3	H－4	灰釉高台椀	12.6	3.8	①細粒②良好③灰白④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	14
4	H－4	須恵高台椀	11.2	5.0	①細粒②良好③明褐灰④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	14
5	H－4	須恵高台椀	10.2	4.4	①細粒②良好③灰オリーブ④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	－
6	H－4	灰釉高台椀	15.3	5.4	①細粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	14
7	H－4	須恵高台椀	(11.0)	4.4	①中粒②良好③明オリーブ灰④1/2	外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	－
8	H－5	須恵坏	(10.2)	2.8	①細粒②良好③明褐灰④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		14
9	H－6	須恵坏	(11.2)	4.4	①細粒②良好③灰白④1/8	外反。轆轤。	回転糸切未調整。		－
10	H－7	カワラケ	8.8	2.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		14
11	H－7	須恵高台椀	(15.6)	5.6	①細粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	14
12	H－9	須恵坏	12.0	4.3	①中粒②良好③にぶい褐④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		14
13	H－9	須恵坏	12.6	3.5	①細粒②良好③灰白④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	内面にスス付着。	14
14	H－9	須恵高台椀	14.8	5.2	①中粒②良好③にぶい黄橙④4/5	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		14
15	H－9	灰釉高台椀	(16.2)	5.4	①細粒②良好③灰白④1/3	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	14
16	H－9	須恵坏	(13.0)	4.2	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		－
17	H－10	須恵坏	(12.4)	4.3	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/3	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		14
18	H－10	カワラケ	(7.8)	1.4	①細粒②良好③橙④1/6	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		－
19	H－11	土師坏	11.7	3.9	①中粒②良好③にぶい橙④完形	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に指頭痕。	14
20	H－11	須恵壺	－	[15.0]	①細粒②良好③明緑灰④1/2	欠損。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	14
21	H－11	土師台付甕	13.0	[17.4]	①細粒②良好③橙④2/3	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。	14
22	H－12	灰釉高台椀	13.2	4.5	①細粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	15
23	H－12	須恵高台椀	17.5	8.0	①細粒②良好③明赤褐④ほぼ完形	端部直立。轆轤。横撫で。篦削り。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面に放射状暗文。	15
24	H－12	須恵高台椀	12.8	4.5	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	15
25	H－12	須恵高台椀	12.0	4.5	①中粒②良好③明褐灰④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	15
26	H－12	須恵坏	11.3	3.9	①中粒②良好③明褐灰④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		16
27	H－12	須恵高台椀	12.8	5.2	①中粒②良好③明緑灰④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	14
28	H－12	須恵坏	12.0	5.2	①中粒②良好③にぶい黄橙④完形	端部直立。轆轤。	回転糸切未調整。	内面にスス付着。	15
29	H－12	須恵坏	11.4	3.5	①中粒②良好③灰オリーブ④ほぼ完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		15
30	H－12	須恵坏	11.6	3.6	①中粒②良好③明オリーブ灰④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	口縁部にスス付着。	15
31	H－12	須恵坏	12.4	4.3	①細粒②極良④灰白④ほぼ完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		15
32	H－12	須恵高台椀	13.0	5.3	①細粒②良好③明オリーブ灰④ほぼ完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	15
33	H－12	須恵高台椀	13.9	6.6	①細粒②良好③にぶい橙④4/5	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面黒色処理。内面篦磨き・花弁状の暗文。	15
34	H－12	須恵坏	13.2	4.8	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		15
35	H－12	須恵高台椀	13.0	4.7	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	15
36	H－12	須恵高台椀	13.8	5.1	①細粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
37	H－12	須恵高台椀	13.2	5.0	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	内面に墨書あり。	15
38	H－12	須恵羽釜	17.4	[19.6]	①中粒②良好③にぶい橙④1/3	内傾。轆轤。横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。上向きの鍔。	15
39	H－12	須恵羽釜	(18.0)	[13.7]	①細粒②良好③にぶい褐④1/8	内傾。轆轤。	欠損。	上向きのツバ。胴部に最大径。	－
40	H－12	須恵羽釜	(19.0)	[20.5]	①細粒②極良④浅黄④1/5	内傾。轆轤。横撫で篦削り。	欠損。	上向きのツバ。ツバ部に最大径。	－
41	H－12	須恵羽釜	(13.0)	[23.0]	①細粒②良好③明黄褐④1/4	内傾。轆轤。横撫で篦削り。	欠損。	上向きのツバ。胴部に最大径。	－
42	H－12	須恵高台椀	13.0	4.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	－
43	H－12	須恵壺	－	[7.5]	①細粒②良好③明緑灰④1/2	口縁欠損。轆轤。	回転糸切後撫で調整。	高台後付け。	－
44	H－12	須恵坏	(13.0)	3.9	①細粒②良好③にぶい橙④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		－
45	H－12	須恵短頸壺	－	[27.2]	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/2	欠損。	回転糸切後篦調整。		－
46	H－13	須恵坏	13.2	4.4	①細粒②良好③にぶい黄橙④4/5	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		16
47	H－13	須恵高台椀	14.5	5.3	①中粒②良好③灰④完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
48	H－13	須恵高台椀	(13.1)	5.0	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
49	H－13	土師甕	20.0	[9.0]	①細粒②良好③橙④1/4	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	口縁部に指頭痕。	－
50	H－14	灰釉高台椀	(12.4)	4.4	①細粒②良好③灰白④1/5	外傾。轆轤。	回転糸切後撫で調整。	釉薬浸し漬け。	－
51	H－15	須恵高台椀	(13.8)	4.5	①中粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
52	H－15	須恵高台椀	(13.8)	5.4	①細粒②良好③浅黄④1/4	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	－
53	H－16	須恵小甕	9.8	8.0	①中粒②良好③にぶい黄橙④1/2	端部外反。轆轤。横撫で。篦削り。	回転糸切後撫で調整。		16

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig.
54	H－16	須恵高台椀	14.4	5.8	①中粒②良好③緑灰④4/5	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
55	H－16	土師壺	18.0	[13.6]	①細粒②良好③にぶい橙④1/3	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	頸部に指頭痕。	－
56	H－16	土師甕	19.6	[19.0]	①細粒②良好③明赤褐④1/3	外傾。横撫で篦削り。	欠損。	口縁部に指頭痕。	16
57	H－17	土師坏	12.0	3.2	①細粒②良好③明赤褐④1/2	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に指頭痕。	16
58	H－19	須恵高台椀	16.0	6.4	①細粒②良好③淡黄④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
59	H－19	須恵坏	(13.2)	3.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	内面・外面にスス付着。	16
60	H－19	土師坏	13.0	4.0	①細粒②良好③明赤褐④2/3	端部外反。横撫で。篦削り。	篦削り。		16
61	H－21	須恵高台椀	13.6	4.8	①中粒②良好③浅黄④3/4	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面にスス付着。	16
62	H－21	須恵坏	13.0	4.6	①細粒②良好③灰白④2/3	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		16
63	H－21	須恵高台椀	(14.0)	5.5	①中粒②良好③浅黄④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	16
64	H－21	灰釉長頸壺	(10.2)	[6.0]	①細粒②良好③明オリーブ灰④－	外反。	欠損。		－
65	H－22	須恵坏	11.2	3.6	①中粒②良好③灰白④完形	外反。轆轤。	回転糸切未調整。		17
66	H－22	須恵高台椀	(16.4)	6.6	①細粒②良好③オリーブ灰④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切撫で調整。	高台後付け。	－
67	H－22	灰釉高台皿	(12.0)	2.3	①細粒②良好③灰白④1/3	外傾。轆轤。	回転篦調整。	釉薬浸し漬け。	－
68	H－22	灰釉高台椀	(17.0)	5.7	①細粒②良好③灰白④1/7	外傾。轆轤。	回転篦調整。	高台後付け。釉薬浸し漬け。	－
69	H－23	須恵羽釜	(21.0)	[4.5]	①細粒②良好③にぶい黄橙④－	内傾。	欠損。		－
70	H－24	須恵羽釜	(19.0)	[4.1]	①細粒②良好③灰白④－	内傾。	欠損。		－
71	H－25	土師甕	16.5	20.4	①粗粒②良好③橙④完形	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。	底部に葉脈痕。口縁部に最大径。	17
72	H－25	土師坏	12.2	4.7	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	外稜。	17
73	H－25	須恵坏蓋	(13.4)	4.6	①細粒②良好③灰白④1/2	轆轤。回転篦削り。			17
74	H－25	土師甕	22.0	[33.0]	①中粒②良好③橙④2/3	外反。横撫で。篦削り。	欠損。		17
75	H－27	土師甕	(20.2)	[8.0]	①細粒②良好③にぶい橙④－	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	頸部に指頭痕。	－
76	H－28	須恵坏	11.6	3.6	①細粒②良好③黄橙④1/2	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		17
77	H－28	灰釉高台椀	(17.2)	6.6	①細粒②良好③灰白④1/3	外反。轆轤。	回転糸切後撫で調整。	高台後付け	－
78	H－29	須恵高台椀	(17.3)	8.0	①中粒②良好③灰白④1/2	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	17
79	H－29	須恵高台椀	(12.9)	(4.2)	①細粒②良好③明オリーブ灰④1/8	外傾。	欠損。		－
80	H－30	須恵高台椀	(12.0)	(4.4)	①細粒②良好③浅黄④1/6	端部外反。	欠損。		－
81	H－31	須恵坏	11.8	3.8	①中粒②良好③明オリーブ灰④ほぼ完形	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		17
82	H－32	須恵羽釜	(23.8)	[5.2]	①細粒②良好③にぶい黄④－	内傾。	欠損。		－
83	H－33	須恵坏	11.6	4.4	①中粒②良好③灰白④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		17
84	H－33	須恵高台椀	11.4	4.5	①細粒②良好③灰黄④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面底部にスス付着。	17
85	H－33	須恵坏	11.0	3.7	①中粒②良好③明褐灰④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		17
86	H－33	須恵坏	11.0	4.6	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。	内面・外面にスス付着。	17
87	H－33	須恵羽釜	23.3	25.5	①中粒②良好③にぶい褐④完形	内傾。轆轤。横撫で。篦削り。	回転糸切後撫で調整。	水平のツバ。ツバ部に最大径。	17
88	H－34	須恵羽釜	(20.2)	[7.1]	①細粒②良好③黄橙④－	内傾。	欠損。		－
89	H－35	須恵高台椀	14.4	5.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④4/5	外傾。轆轤。横撫で。篦削り。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面篦磨き。	18
90	H－35	須恵高台椀	14.2	5.8	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外傾。轆轤。横撫で。篦削り。	回転糸切未調整。	高台後付け。内面篦磨き。	18
91	H－35	須恵坏	13.3	4.0	①中粒②良好③明オリーブ灰④3/4	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		18
92	H－35	須恵坏	13.2	3.6	①細粒②良好③にぶい褐④ほぼ完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		17
93	H－35	須恵坏	13.5	4.1	①細粒②良好③淡赤橙④2/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		17
94	H－35	須恵坏	13.2	3.7	①細粒②良好③明緑灰④2/3	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		18
95	H－35	土師甕	18.2	25.9	①細粒②良好③明赤褐④1/3	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径。口縁部に指頭痕。	18
96	H－35	土師甕	19.6	[17.4]	①細粒②良好③明赤褐④1/2	外傾。横撫で。篦削り。	欠損。	胴部に最大径。口縁部に指頭痕。	18
97	H－35	須恵大甕	(34.0)	[12.5]	①細粒②良好③灰黄④－	端部外反。轆轤。	欠損。		－
98	H－37	須恵蓋	(17.8)	[3.0]	①細粒②良好③青灰④1/5	轆轤。		口唇部に返し。	18
99	H－39	須恵坏	(12.8)	3.9	①細粒②良好③にぶい赤褐④1/4	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。		－
100	H－40	須恵高台椀	(14.8)	5.8	①細粒②良好③灰黄④1/3	外傾。轆轤。	回転糸切未調整。	高台後付け。	18
101	H－41	須恵高台椀	－	[2.1]	①中粒②良好③明オリーブ灰④1/5	欠損。	回転糸切撫で調整。		－
102	X53 Y19	須恵坏	13.8	3.8	①細粒②良好③灰白④完形	端部外反。轆轤。	回転糸切未調整。		－

注）観察表の記載は以下の基準で行った。

1　胎土は細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜）、粗粒（2.0㎜以上）とした。

2　焼成は、極良・良好・不良の３段階。

3　色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）によった。

4　大きさの単位は㎝であり、現存値を［　］、復元値を（　）で示した。

Tab. 3　金属製品観察表

No	出土位置	器　形	長	幅	厚	残存	備　　考
1	H － 22	不　明	3.1	0.7	0.4	2／3	銅製品。環状部内径 6 ㎜。用途不明。
2	H － 4	釘	[6.9]	0.5	0.4	2／3	角釘。頭部欠損。
3	H － 9	釘	[6.7]	0.5	0.4	5／6	頭部形状折頭式の角釘。
4	H － 9	釘	[6.8]	0.4	0.3	2／3	角釘。頭部欠損。
5	H － 5	釘	9.1	0.9	0.8	完　形	角釘。
6	H － 21	釘	11.4	0.6	0.8	完　形	頭部形状折頭式の角釘。平らな先端部。
7	H － 16	釘	9.5	0.4	0.4	4／5	頭部・先端部欠損。
8	H － 15	釘	9.3	0.5	0.5	完　形	頭部形状折頭式の角釘。偏平な先端部。
9	H － 4	不　明	9.2	1.9	0.2	完　形	毛抜き型鉄製品。
10	H － 16	刀　子	9.5	0.8	0.3	完　形	片関造平棟。
11	A区表採	刀　子	[10.6]	1.6	0.4	1／2	先端・茎部欠損。
12	H － 7	刀　子	[13.9]	1.3	0.4	1／2	先端・茎部欠損。
13	H － 17	刀　子	[15.1]	1.2	0.3	5／6	先端部欠損。両関造平棟。

注）表の記載で、長・幅・厚についての単位は㎝であり、現存値は［　］で示した。
注）紙面の都合上、主な鉄製品13点についてのみ記した。

Tab. 4　石器・石製品観察表

No	出土位置	器　種	長	幅	厚	重さ	石　材	備　　考
1	X39Y42	石　鏃	1.8	1.3	0.5	[0.7]	黒 曜 石	凹基無茎鏃。先端部欠損。
2	B区表採	石　鏃	[1.7]	1.4	0.3	[0.5]	黒 曜 石	凹基無茎鏃。基部先端部欠損。
3	B区表採	紡錘車	4.0	4.2	2.1	47.4	黒色頁岩	
4	H － 12	砥　石	[5.2]	4.0	2.3	73.0	砥 沢 石	上部に円孔を有する。全ての側面に使用痕が認められる。

注）表の記載で、大きさと重さについての単位は㎝、ｇであり、現存値は［　］で示した。

Tab. 5　瓦　観　察　表

No	出土位置	瓦の種類	厚さ	胎土		焼成		備　　考	摘　要
				素　地	夾雑物	焼き上り	色　調		
1	X40Y46	女　瓦	[2.5]	粗	多	軟	灰	文字は不明。（山か）。	秋　間
2	H － 22	男　瓦	[2.3]	並	少	並	灰	凸面に押印。佐位の左上端部か。	秋　間
3	H － 16	女　瓦	[2.5]	並	多	硬	青　灰	凸面の端部近くにやや小さめに「山」。	秋　間
4	H － 26	鬼瓦？	[2.4]	粗	微	軟	灰　白	端部の２個の刺突は貫通。	秋　間
5	D区表採	女　瓦	[1.5]	並	多	並	灰	凹面に小型の竹管文。	秋　間
6	H － 30	鐙　瓦	[2.1]	粗	微	軟	灰　白	鳥足状の蓮弁。周縁は無文。	秋　間
7	E区表採	男　瓦	[2.0]	粗	多	硬	黒　褐	凸面に「田」。	秋　間
8	H － 13	玉　男	2.7	密	多	並	緑　灰		秋　間
9	B区表採	男　瓦	[2.3]	粗	多	並	褐　灰	左部。下部欠失。凹面に文字（辛か）。	秋　間
10	H － 10	女　瓦	[1.7]	並	多	軟	灰黄褐	格子目叩き。	秋　間
11	B区表採	男　瓦	[2.8]	密	多	硬	褐　灰	凸面に「千」。	秋　間
12	E区表採	女　瓦	[1.8]	並	多	軟	暗灰黄	凸面に「若」。	秋　間
13	H － 27	女　瓦	[2.4]	密	多	並	灰黄褐	文字は不明（八か）。	秋　間

注）表の記載で、厚さについての単位は㎝であり、現在値は［　］で示した。

瓦については全て破片であるが、出土点数が948点と多いことから、文字瓦を中心に13点のみ観察表に表し、あとは全体的な特徴を記すこととする。

・全ての調査区内から出土している。住居址内からも、H－25号住居址を除き満遍なく出土している。また、少なくとも12軒の住居址では瓦を竈の袖石あるいは縁石として使用していた。
・叩きについては並行叩きもあるが縄目が圧倒的に多い。女瓦は撫で消さないものよりも雑に撫で消すものの方が少ない。男瓦は、ほとんどのものが丁寧に撫で消している。格子叩きについては、正格子のものは少なく、斜格子が目立つ。
・男瓦は、行基葺瓦がほとんどだが、玉縁付男瓦も数種類みられる。
・女瓦は、ほとんどが一枚造りである。
・秋間産のものが多く、時代としては９世紀以降のものが多い感じを受ける。

Ⅵ　成果と問題点

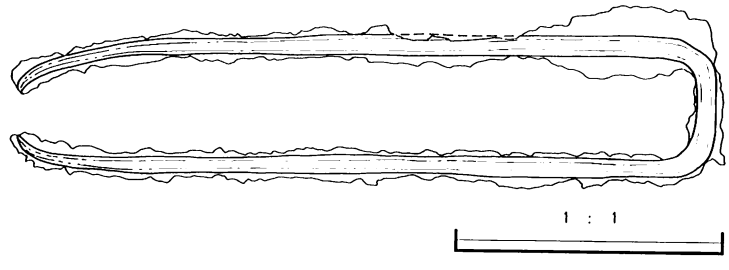
今回の上野国分寺参道遺跡発掘調査では、竪穴住居址41軒、溝址２条、土坑３基を検出した。調査区内には少量ではあるが縄文時代中期後半の土器破片や打製石斧も出土しており、古くからこの地において人々の活動が営まれてきたことがうかがえる。

検出された住居址についてみると、Ｂ区中央部にて遺物や竈の形態から古墳時代後期と思われる住居址（Ｈ－25号住居址）が１軒検出されているが、中心となるのは平安時代の住居址である。道水路部分のみの調査のため、その全体が把握できない住居址も多いが、形態的には方形と長方形に分かれ、やや長方形が多い。その一辺は３～４ｍ程度で、竈は東壁か南東隅に造られている住居址が主体となる。竈壁の補強のために砂岩を使用していた住居址も数軒(注２)みられたが、検出された竈29基のうち少なくとも12基(注２)は補強用として上野国分寺のものと思われる瓦が使用されていた。上野国分寺跡と本遺跡の位置関係から考え当然といえば当然であるが、律令制の崩壊とともに修理も思うようにならず国分寺の破損が進行していく一方で、日々をたくましく生き抜こうとする一般民衆の生活力が感じられる。

全般に目新しい遺構は検出されなかったが、Ｈ－12号住居址では、竈の左袖部には砂岩を、右袖部には瓦が補強用として使用されているとともに、焚き口部を中心に半径１ｍほどのごく狭い範囲に多量の土器が散乱している状況がみられた。土器片は、竈を廻るように散らばるものと竈手前に散らばるものとに分かれ、燃焼部にはほとんどみられないことから、前者は、竈を造るときの芯として使用されたものであると思われる。完形品は11点出土したが、芯として使用したと思われるものは竈先端部の１点のみで、残りは竈手前から左側に集中する。また、個々の土器を観察すると、口縁部や内面に付着する油煙の様子から灯明皿として使用されたと考えられる坏、内面を黒色処理するとともに花弁を意匠化したような暗文を施した椀(注３)、内面に墨書のある椀(注４)、さらに灰釉の施された椀等が出土している。本住居址上部は、かなり深く耕作されていること、住居址の大部分が調査区外となるためその全体像がはっきりしないが、何かしらの儀式の跡であろうか。

一方、遺物についてみると、中心となる住居址の時期を裏付けるように、器種は須恵器の坏・椀が圧倒的に多い。羽釜の出土数も多いが、破片が多く完形品はＨ－33号住居址から出土した１点のみであった。緑釉陶器は、Ｂ区最西方部のＨ－11・22号住居址から破片８点が出土した。釘を中心とする鉄製品及び鉄滓はＡ・Ｂ区を中心に数多く出土しているが、Ｈ－４号住居址からは釘に混じって毛抜き型鉄製品が出土した(注５)。何の為に使用されたものか定かではないが、長さは92㎜で手のひらにちょうど収まる大きさとなっている。実測図で見る限り、握り部分から先端部にかけて、幅は均一に調整されている。また、先端部約１㎝程を内側に湾曲させ、特に最先端部５㎜程を急激に内湾させている。しかも最先端部の裏側を観察すると、表面をやや窪ませ先端部の接地面を小さくし加えた力が両先端部に集中するような細工がみられる。

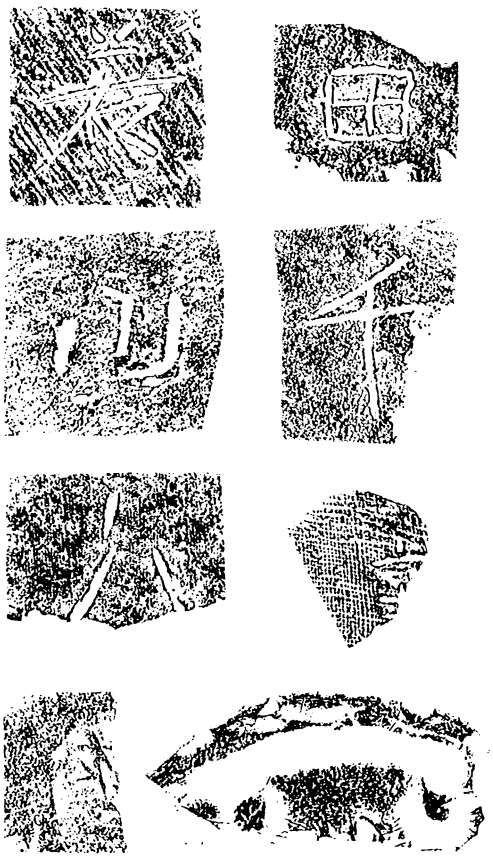
染谷川を隔てた北方約200ｍには上野国分寺跡があり、発掘調査によって多量の瓦が出土している。本調査区でも住居址内やその周辺から多くの瓦片が出土している(注６)。ほとんど平・丸瓦であり軒丸瓦破片(注７)は１点確認されたのみである。平瓦は、ほとんどが一枚造りであり、丸瓦は玉縁付丸瓦も数種類



Ｈ－４出土　毛抜き型鉄製品実測図

みられるが、多くは行基葺瓦である。出土した文字瓦については『千』『山』『田』『若』、不明３点（山・八・辛か）の７点が出土している。また、○が竹管で押印された瓦片も出土している。これらは、上野国分寺跡の調査で出土している瓦と同種のものである。

本遺跡はその名の示すとおり、古くから地元では上野国分寺（南大門）へ至る参道があったとされる区割りを含む。調査区のＣ－２区がそれにあたる。都市計画図(注８)でみると、Ｃ－２区中央より南延長線上に細長い畑地が点在する。また、地元でも国分寺の参道と称されてきた歴史をもつ。尾張国分寺跡の調査(注９)をみると、参道そのものは確認されていない。しかし、南大門跡と推定される付近には約12ｍ間隔の溝址２条が微高地に検出されている(注10)。上野国分寺においても寺域南外側の調査(注11)において南大門の位置を通る溝状掘り込みが検出されているが、南大門の南北両側で切り通し状になっていることから、参道とみるには問題もあると指摘されいる。



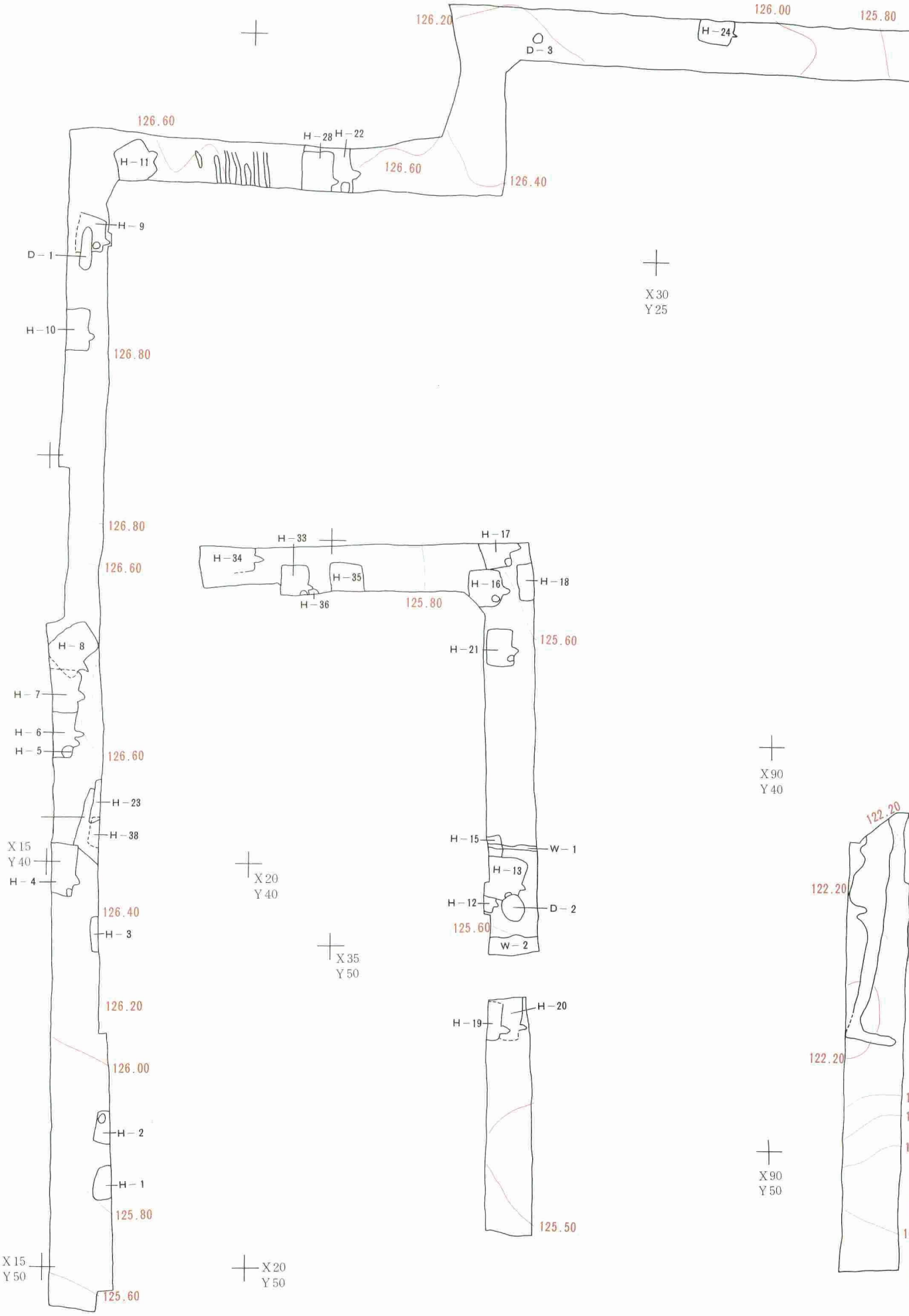
瓦（拓影）

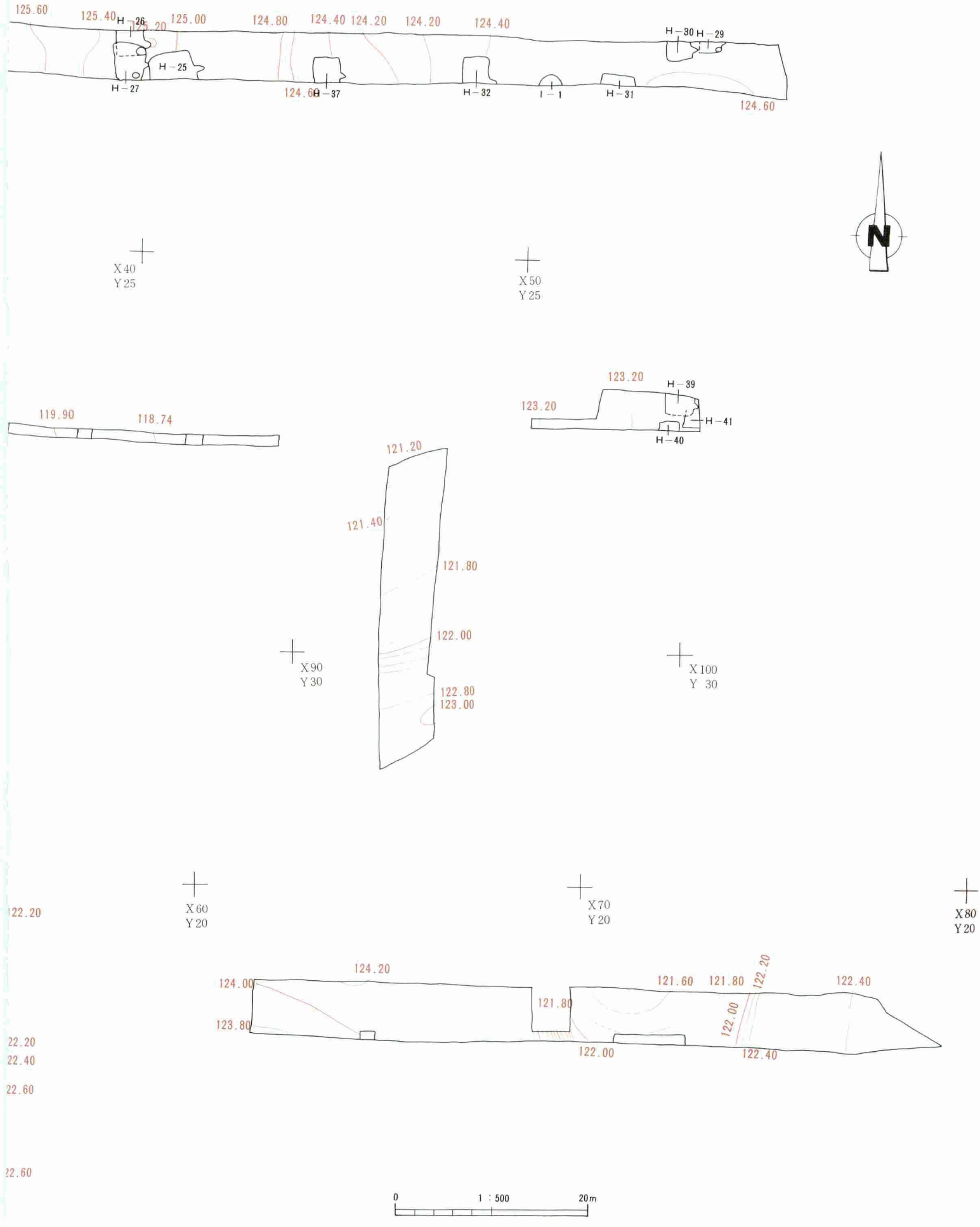
Ｃ－２区の調査では、幅７～８ｍにわたり地表より50㎝程下の土層が他の場所より下がっていることが確認されたが参道に関連するような遺構や溝、遺物等の痕跡は全くみられなかった。また、地元で参道と考えられてきた地点は、南大門延長線上よりやや東にずれていること、微高地ではなく逆に窪んでいること等から参道は別の地点になる可能性も高い。しかし、当初、参道を想定した場所には、東北端にやや不自然な立ち上がりを感じさせる場所もあり、参道である可能性も否定しえない。検出された住居址の位置をみると、谷地に近いという地形的な理由もあろうが、南大門跡を真っすぐに南下するラインより東側ではＣ－４区まで住居址は１軒も検出されなかった。いずれにしろ、国分寺跡に隣接する地域の調査例は少なく、しかも本調査は限られた区域の調査であるため、本集落の性格や参道の位置について明かにできなかった点も多い。しかし、今後のより広い範囲で調査が行われることにより、本遺跡の位置づけ、あるいは上野国分寺と周辺集落との関係・参道等が明かになるであろう。

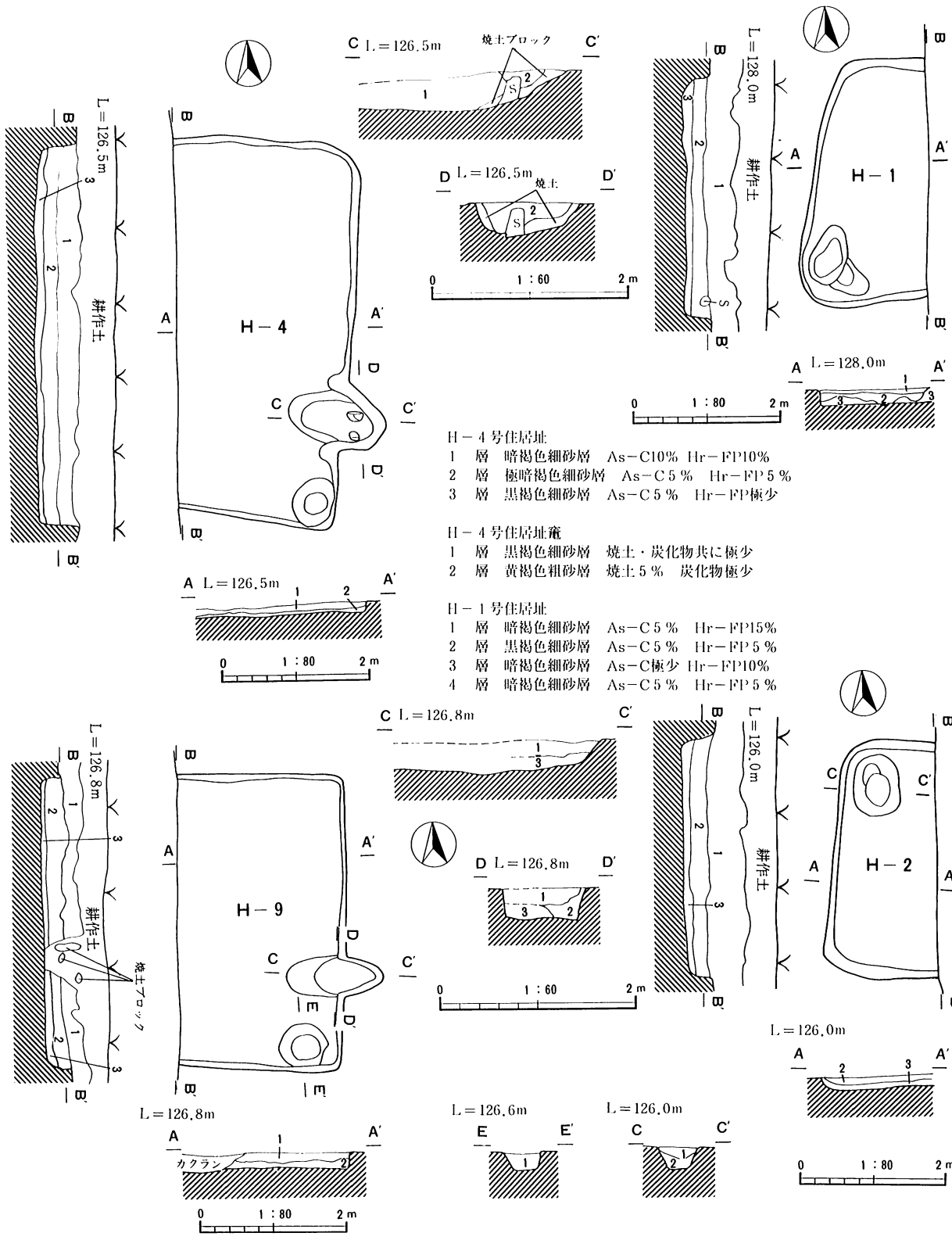
注）１　耕作等により動かされた砂岩も多く、明かに砂岩を竈の補強用として使用していたことが確認できた住居址は、Ｈ－５・10・12・33の４軒。本遺跡の南東約500ｍの鳥羽遺跡等の影響もあろうか。
２　瓦で補強していた住居址12軒は、Ｈ－４・５・７・12・16・17・22・24・26・27・28・36号住居址。
３　花弁の模様が坏底部中央より４方向に篦書きされる。草木を交差させ祭祀の印である×を表現しているようにもみえる。
４　横画の左留めや払いの方向から『木』の鏡文字とも考えられる。
５　出土位置は、竈と北壁との中間あたりの東壁際。床面から２～３㎝の高さのところから出土。
６　Ｈ－25号住居址内を除き、各調査区内から満遍なく出土した瓦片は総計948点を数える。鬼瓦と思われる破片が１点出土しているが、小破片であるため文様等は不明。
７　『史跡上野国分寺跡』（1988・群馬県教育委員会）の軒瓦分類番号によるM002と思われる。
８　前橋市都市計画図５４（昭和43年）参照。
９　尾張国分寺跡については、稲沢市教育委員会北條献示氏のご教示による。南大門跡推定地付近は字名大門。
10　堀之内花ノ木遺跡（1991　愛知県埋蔵文化財センターによる調査）で検出。溝址の中から国分寺創建時の遺物が検出されている。
11　『史跡上野国分寺跡』（1988・群馬県教育委員会）第Ⅵ章第７節参照。

《参考文献》

史跡上野国分寺跡発掘調査報告書　群馬県教育委員会　1988
後疋間遺跡（Ⅰ～Ⅲ）　群馬町教育委員会　1986他
塚田村東遺跡概報　群馬町教育委員会　1986
堀之内花ノ木遺跡　愛知県埋蔵文化財センター　1994


126.20
126.00
125.80
H－24
D－3
126.60
H－28
H－22
H－11
126.60
126.40
H－9
D－1
X30
Y25
H－10
126.80
126.80
H－33
H－17
H－34
126.60
H－35
H－16
H－18
H－36
125.80
125.60
H－21
H－8
H－7
H－6
H－5
126.60
X90
Y40
H－23
H－38
X15
Y40
H－4
X20
Y40
H－15
W－1
H－13
H－12
D－2
126.40
H－3
125.60
W－2
X35
Y50
126.20
H－20
H－19
126.00
H－2
H－1
125.80
125.50
X15
Y50
X20
Y50
125.60
122.20
122.20
122.20
X90
Y50


125.60
125.40
H－26
125.20
125.00
124.80
124.40
124.20
124.20
124.40
H－30
H－29
H－25
H－27
124.60
H－37
H－32
I－1
H－31
124.60
N
X40
Y25
X50
Y25
123.20
H－39
123.20
H－41
H－40
119.90
118.74
121.20
121.40
121.80
122.00
X90
Y30
X100
Y 30
122.80
123.00
X60
Y20
X70
Y20
X80
Y20
122.20
124.20
124.00
121.60
121.80
122.20
122.40
121.80
123.80
122.00
122.00
122.40
22.20
22.40
22.60
22.60
0
1：500
20m



H－4号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C10%　Hr－FP10%
2　層　極暗褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP5%
3　層　黒褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP極少

H－4号住居址竈
1　層　黒褐色細砂層　焼土・炭化物共に極少
2　層　黄褐色粗砂層　焼土5%　炭化物極少

H－1号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP15%
2　層　黒褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP5%
3　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%
4　層　暗褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP5%

H－9号住居址
1　層　褐色粗砂層　As－C、Hr－FP、As－B極少
2　層　暗褐色細砂層　As－C5%　Hr－FP5%
3　層　灰褐色細砂層　As－C、炭化物極少

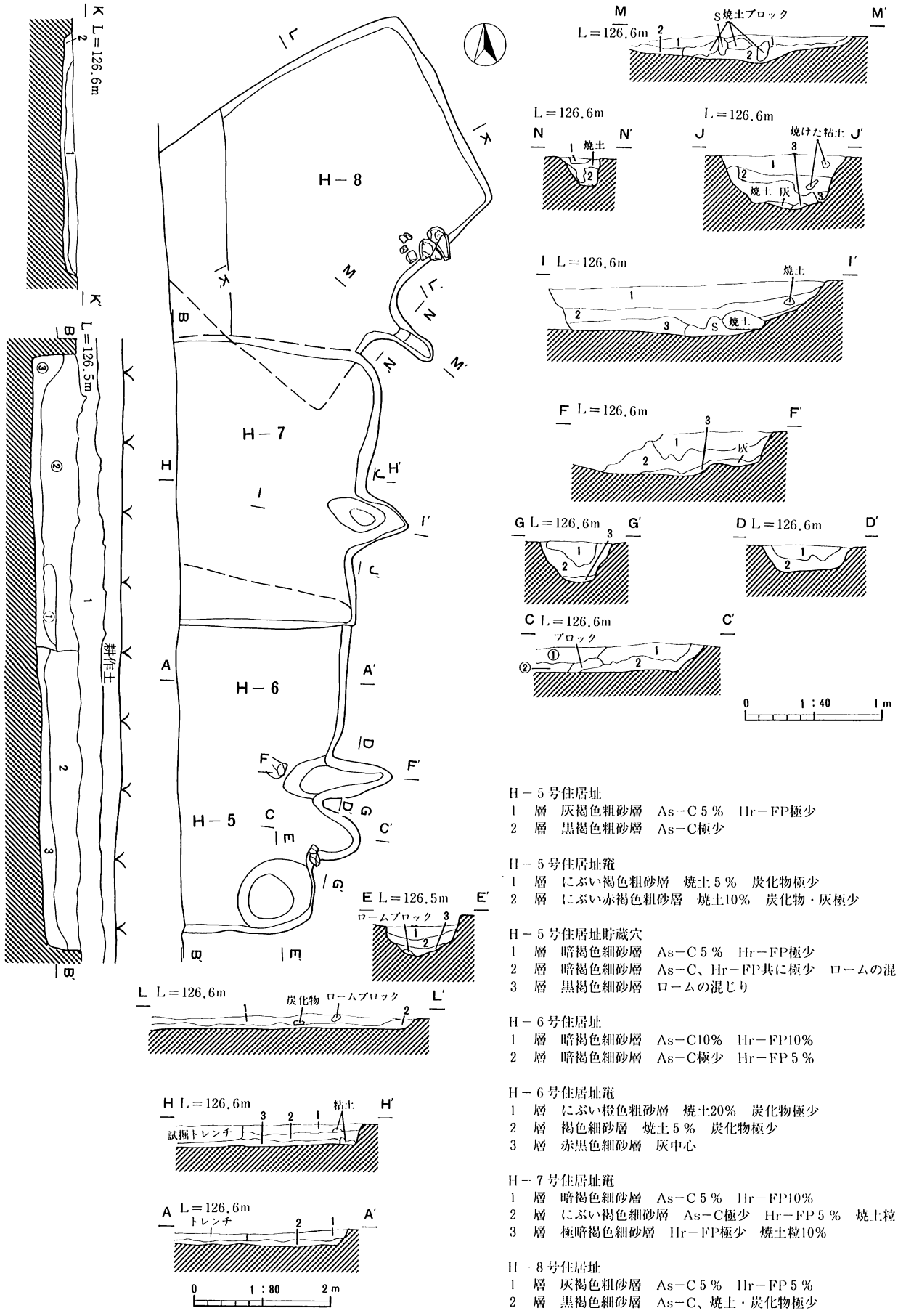
H－9号住居址貯蔵穴
1　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少

H－9号住居址竈
1　層　褐色粗砂層　As－C、Hr－FP、焼土極少
2　層　褐色粗砂層　焼土、炭化物極少　灰まじり
3　層　にぶい黄褐色層　焼土極少　ローム土5%

H－2号住居址
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP15%
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP10%
3　層　黒褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP5%

H－2号住居址P－1
1　層　黒褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP5%
2　層　暗褐色細砂層　焼土粒10%

Fig. 4　H－1，2，4，9号住居址



H－5号住居址
1　層　灰褐色粗砂層　As－C５％　Hr－FP極少
2　層　黒褐色粗砂層　As－C極少

H－5号住居址竈
1　層　にぶい褐色粗砂層　焼土５％　炭化物極少
2　層　にぶい赤褐色粗砂層　焼土10％　炭化物・灰極少

H－5号住居址貯蔵穴
1　層　暗褐色細砂層　As－C５％　Hr－FP極少
2　層　暗褐色細砂層　As－C、Hr－FP共に極少　ロームの混じり
3　層　黒褐色細砂層　ロームの混じり

H－6号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C10％　Hr－FP10％
2　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP５％

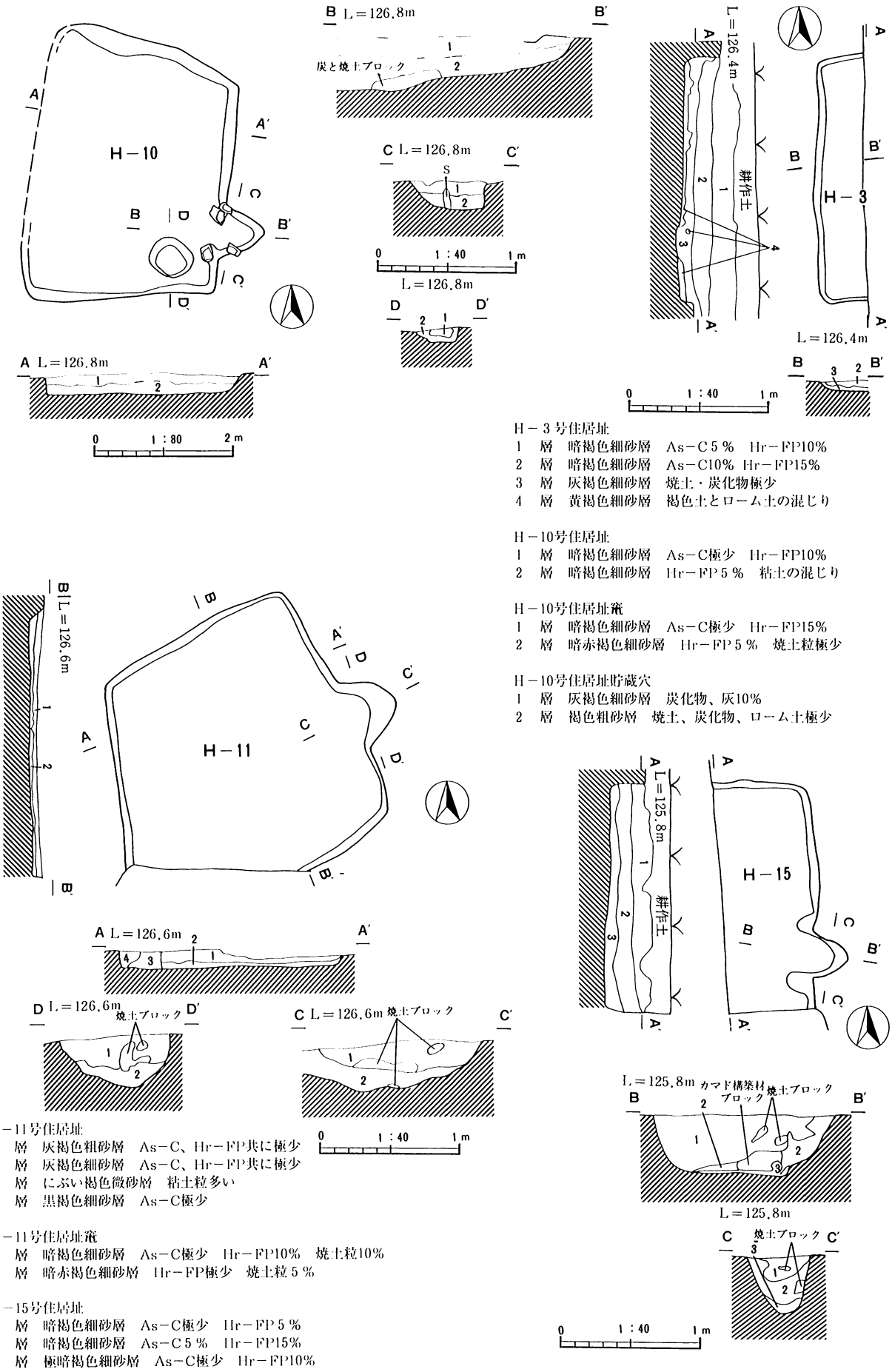
H－6号住居址竈
1　層　にぶい橙色粗砂層　焼土20％　炭化物極少
2　層　褐色細砂層　焼土５％　炭化物極少
3　層　赤黒色細砂層　灰中心

H－7号住居址竈
1　層　暗褐色細砂層　As－C５％　Hr－FP10％
2　層　にぶい褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP５％　焼土粒５％
3　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少　焼土粒10％

H－8号住居址
1　層　灰褐色粗砂層　As－C５％　Hr－FP５％
2　層　黒褐色細砂層　As－C、焼土・炭化物極少

H－8号住居址竈
1　層　暗赤褐色細砂層　Hr－FP極少　焼土粒５％
2　層　にぶい赤褐色細砂層　焼土粒極少

Fig. 5　H－5・6・7，8号住居址



H－3号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C5％　Hr－FP10％
2　層　暗褐色細砂層　As－C10％　Hr－FP15％
3　層　灰褐色細砂層　焼土・炭化物極少
4　層　黄褐色細砂層　褐色土とローム土の混じり

H－10号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10％
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP5％　粘土の混じり

H－10号住居址竈
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP15％
2　層　暗赤褐色細砂層　Hr－FP5％　焼土粒極少

H－10号住居址貯蔵穴
1　層　灰褐色細砂層　炭化物、灰10％
2　層　褐色粗砂層　焼土、炭化物、ローム土極少

H－11号住居址
1　層　灰褐色粗砂層　As－C、Hr－FP共に極少
2　層　灰褐色細砂層　As－C、Hr－FP共に極少
3　層　にぶい褐色微砂層　粘土粒多い
4　層　黒褐色細砂層　As－C極少

H－11号住居址竈
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10％　焼土粒10％
2　層　暗赤褐色細砂層　Hr－FP極少　焼土粒5％

H－15号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP5％
2　層　暗褐色細砂層　As－C5％　Hr－FP15％
3　層　極暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10％

H－15号住居址竈
1　層　褐色粗砂層　As－C5％　Hr－FP5％　焼土極少
2　層　暗赤褐色細砂層　焼土、炭化物極少
3　層　にぶい黄褐色微砂層　灰中心　炭化物10％

Fig. 6　H－3，10，11，15号住居址

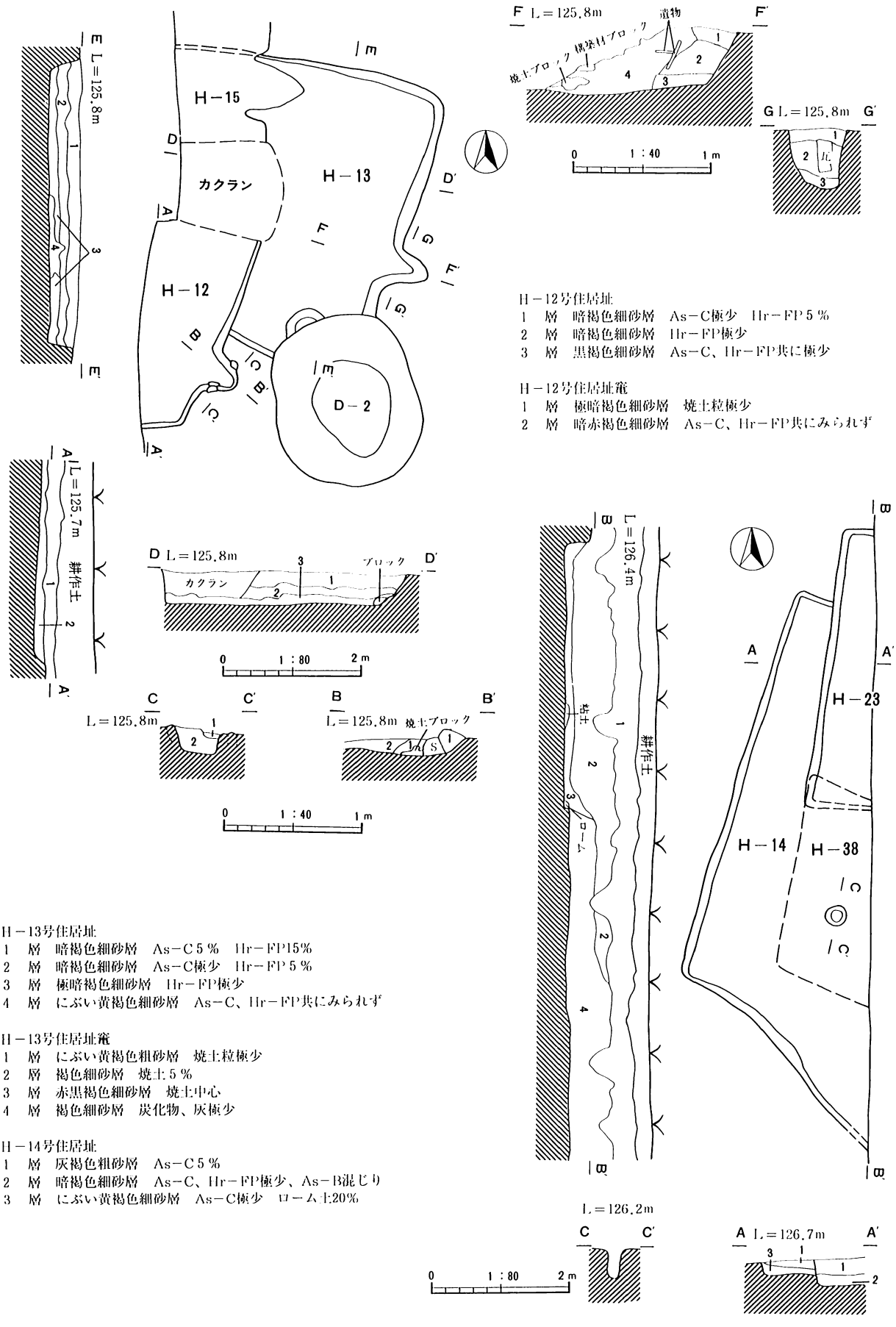
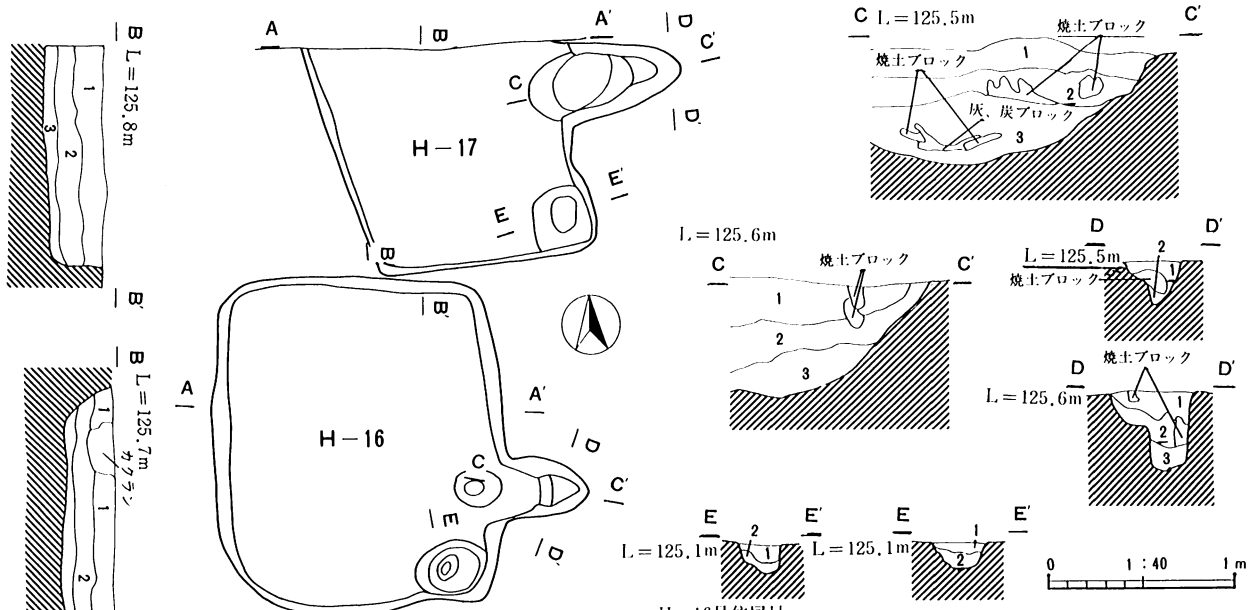


Fig. 7 H－12・13, 14・23・38号住居址, D－2号土杭址



H－16号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%
2　層　暗褐色微砂層　As－C極少　Hr－FP５%
3　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP５%

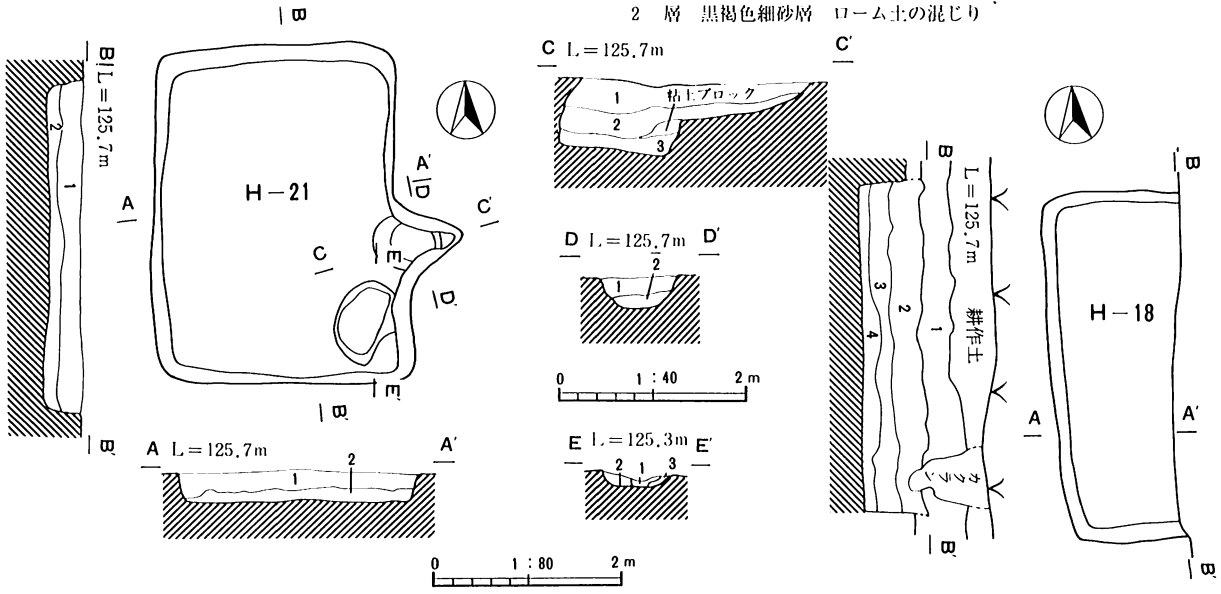
H－16号住居址竈
1　層　暗褐色粗砂層　As－C極少　Hr－FP10%
2　層　暗赤褐色粗砂層　Hr－FP５%　焼土極少
3　層　極暗赤褐色細砂層　焼土粒10%　灰まじり

H－16号住居址貯蔵穴
1　層　にぶい褐色細砂層　Hr－FP極少　灰混じり
2　層　暗褐色微砂層　炭化物、灰、ローム土混じり

H－17号住居址
1　層　褐色細砂層　As－C５%　Hr－FP20%
2　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%
3　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP５%

H－17号住居址竈
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%　焼土粒15%
2　層　灰褐色細砂層　極少　焼土粒、灰混じり
3　層　暗褐色細砂層　焼土粒５%　灰混じり

H－17号住居址貯蔵穴
1　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少　灰混じり
2　層　黒褐色細砂層　ローム土の混じり



H－18号住居址
1　層　褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP５%
2　層　暗褐色細砂層　As－C５%　Hr－FP10%
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少　ローム土の混じり
4　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP極少　ローム土の混じり

H－21号住居址
1　層　にぶい褐色粗砂層　As－C５%　Hr－FP極少
2　層　褐色細砂層　As－C極少

H－21号住居址竈
1　層　褐色粗砂層　As－C極少　Hr－FP10%　焼土粒極少
2　層　暗褐色細砂層　Hr－FP５%　焼土粒、灰混じり
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少　焼土粒極少

H－21号住居址貯蔵穴
1　層　褐色微砂層　焼土、灰、炭化物極少
2　層　にぶい褐色粗砂層　ローム土混じり
3　層　灰白色微砂層　粘土中心

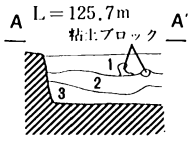
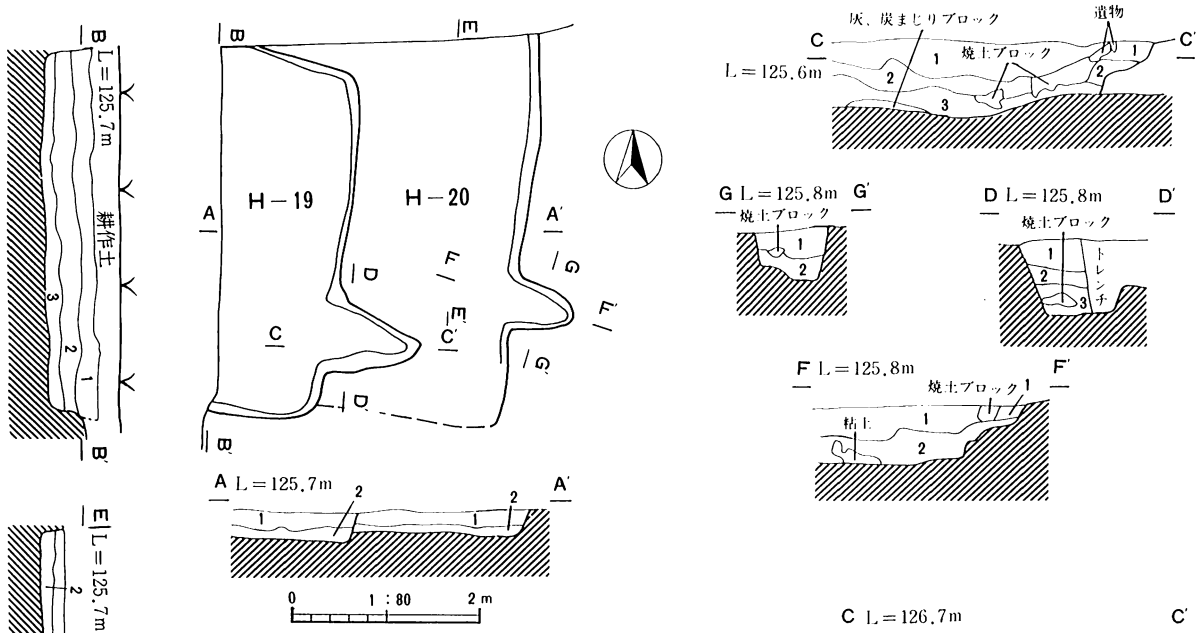


Fig. 8　H－16, 17, 18, 21号住居址

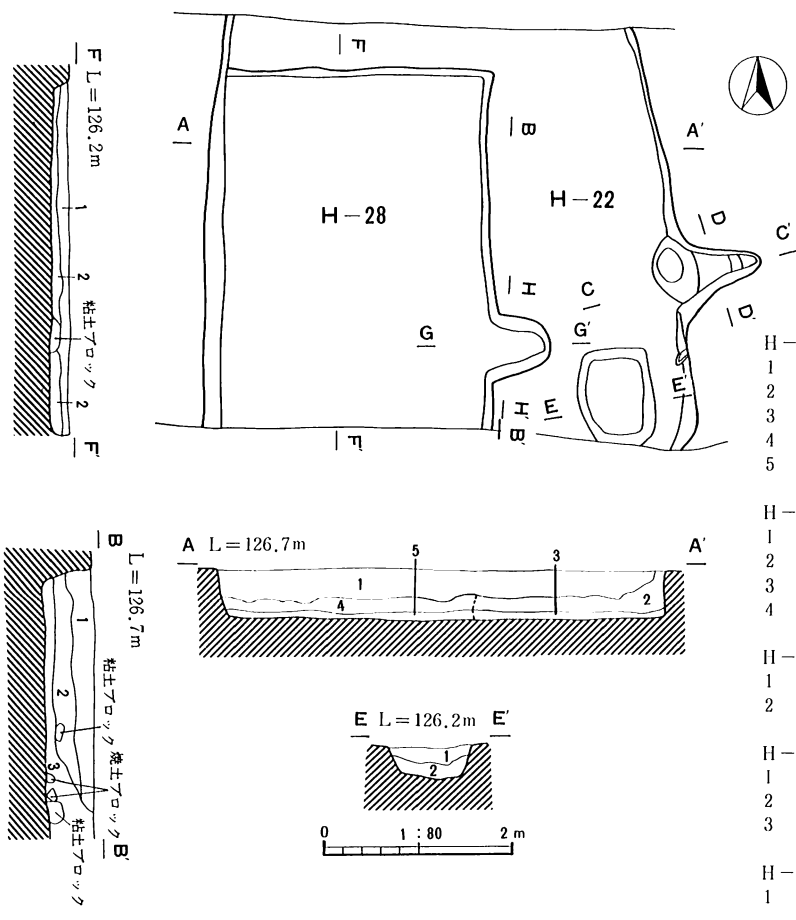


H－19号住居址
1　層　褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP15%
2　層　暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP極少

H－19号住居址竈
1　層　にぶい褐色細砂層　As－C、Hr－FP極少
2　層　暗褐色細砂層　焼土粒極少
3　層　極暗赤褐色細砂層　As－C極少　焼土粒5％

H－20号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C、Hr－FP極少
2　層　黒褐色細砂層　Hr－FP極少

H－20号住居址竈
1　層　暗褐色細砂層　As－C極少　焼土粒極少
2　層　極暗褐色細砂層　焼土粒5％



H－22・28号住居址
1　層　暗褐色細砂層　As－C5％　Hr－FP20%
2　層　極暗褐色細砂層　As－C極少　Hr－FP10%
3　層　暗褐色細砂層　Hr－FP5％
4　層　極暗褐色細砂層　Hr－FP10%
5　層　黒褐色細砂層　Hr－FP5％

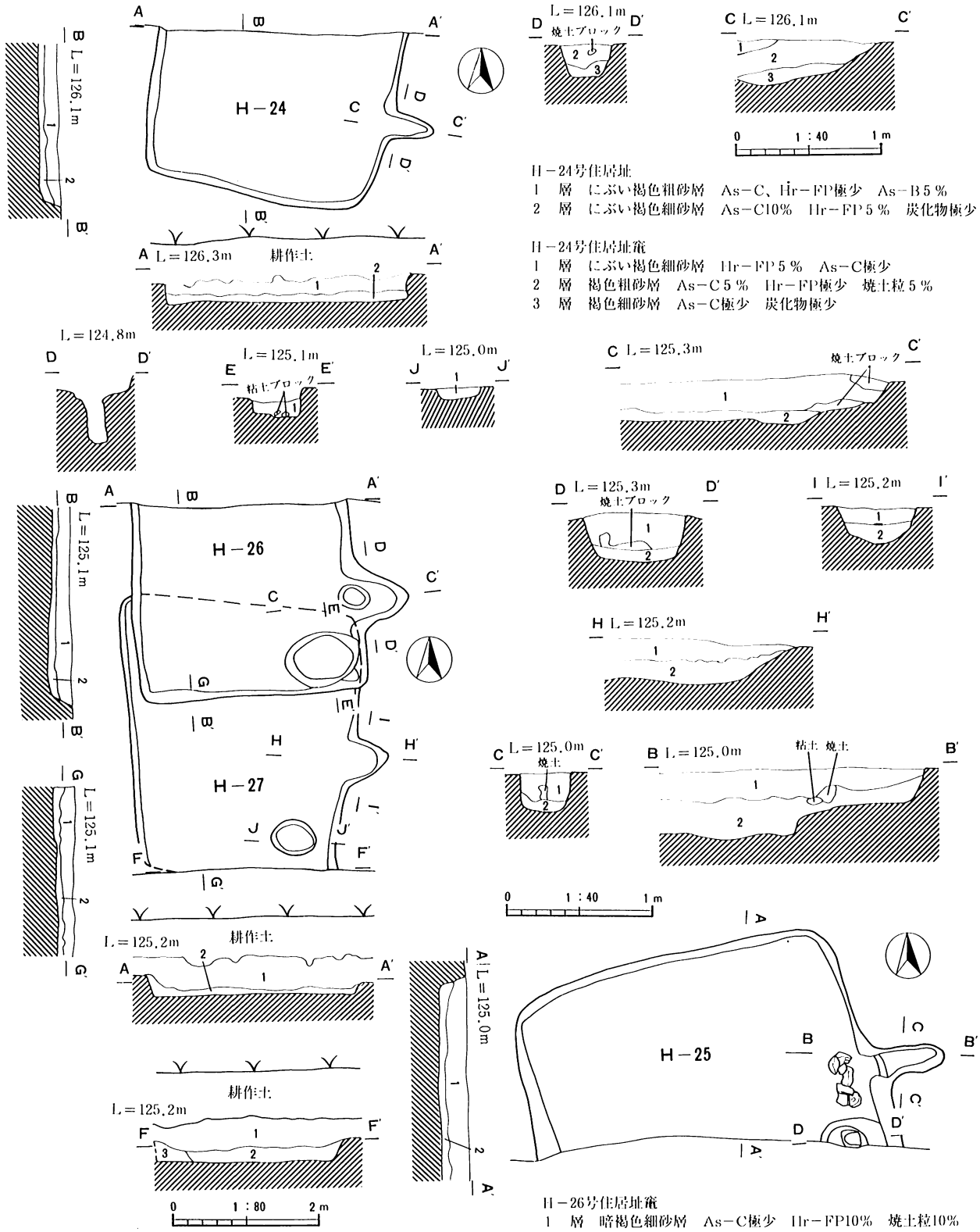
H－22号住居址竈
1　層　にぶい褐色粗砂層　As－C10%　Hr－FP5％
2　層　褐色粗砂層　As－C5％　Hr－FP極少
3　層　灰褐色細砂層　As－C、焼土、炭化物極少
4　層　褐色粗砂層　焼土10%　炭化物、灰極少

H－22号住居址貯蔵穴
1　層　黒褐色粗砂層　As－C、Hr－FP、炭化物極少
2　層　灰褐色細砂層　As－C極少　粘土粒5％

H－28号住居址
1　層　にぶい褐色粗砂層　As－C10%　Hr－FP5％　As－B20%
2　層　にぶい褐色粗砂層　As－C15%　Hr－FP10%　炭化物極少
3　層　灰褐色細砂層　As－C5％　Hr－FP極少

H－28号住居址竈
1　層　黒褐色細砂層　焼土粒5％　灰混じり

Fig. 9　H－19・20, 22・28号住居址



H－24号住居址
1 層 にぶい褐色粗砂層 As－C、Hr－FP極少 As－B 5％
2 層 にぶい褐色細砂層 As－C10％ Hr－FP 5％ 炭化物極少

H－24号住居址竈
1 層 にぶい褐色細砂層 Hr－FP 5％ As－C極少
2 層 褐色粗砂層 As－C 5％ Hr－FP極少 焼土粒 5％
3 層 褐色細砂層 As－C極少 炭化物極少

H－26号住居址竈
1 層 暗褐色細砂層 As－C極少 Hr－FP10％ 焼土粒10％
2 層 極暗褐色細砂層 Hr－FP 5％ 焼土、炭化物極少

H－26号住居址貯蔵穴
1 層 灰褐色細砂層 炭化物 5％ 焼土極少

H－25号住居址
1 層 灰黄褐色粗砂層 As－C10％ Hr－FP 5％
2 層 にぶい黄褐色細砂層 As－C、Hr－FP、焼土、炭化物極少

H－25号住居址竈
1 層 暗赤褐色粗砂層 As－C極少 Hr－FP 5％ 焼土粒 5％
2 層 褐色細砂層 Hr－FP、焼土、炭化物極少

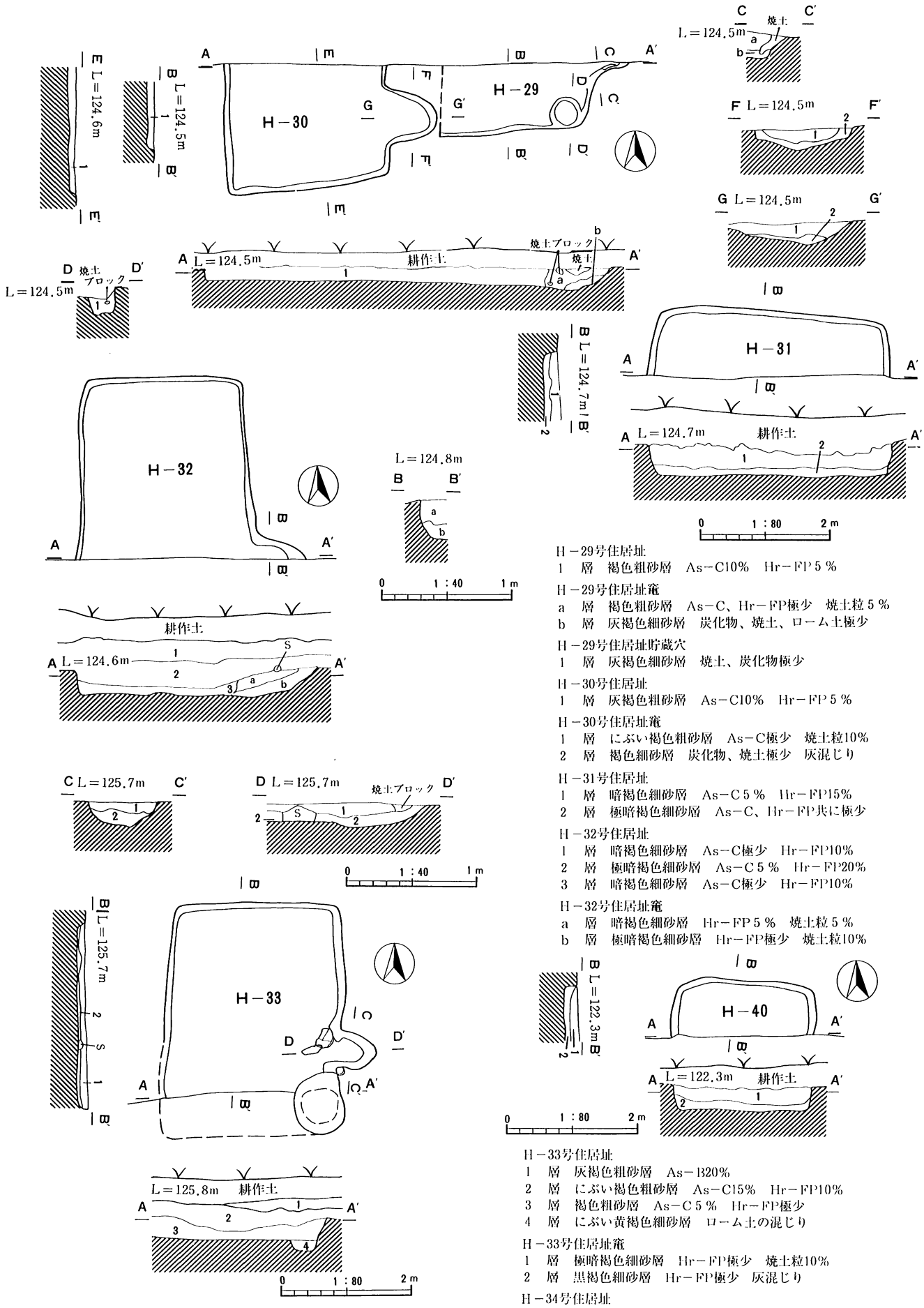
H－26号住居址
1 層 褐色粗砂層 As－C10％ Hr－FP 5％
2 層 灰褐色細砂層 As－C 5％ Hr－FP極少

H－27号住居址
1 層 灰褐色粗砂層 As－C15％ Hr－FP10％
2 層 黒褐色細砂層 As－C10％ Hr－FP 5％
3 層 黒褐色粗砂層 As－C 5％

H－27号住居址竈
1 層 極暗褐色細砂層 Hr－FP10％ 焼土粒極少
2 層 にぶい褐色細砂層 Hr－FP極少 焼土粒極少

H－27号住居址貯蔵穴
1 層 黒褐色粗砂層 焼土、炭化物、ローム土極少

Fig. 10 H－24, 25, 26・27号住居址



H－29号住居址
1 層 褐色粗砂層 As－C10% Hr－FP 5 %

H－29号住居址竈
a 層 褐色粗砂層 As－C、Hr－FP極少 焼土粒 5 %
b 層 灰褐色細砂層 炭化物、焼土、ローム土極少

H－29号住居址貯蔵穴
1 層 灰褐色細砂層 焼土、炭化物極少

H－30号住居址
1 層 灰褐色粗砂層 As－C10% Hr－FP 5 %

H－30号住居址竈
1 層 にぶい褐色粗砂層 As－C極少 焼土粒10%
2 層 褐色細砂層 炭化物、焼土極少 灰混じり

H－31号住居址
1 層 暗褐色細砂層 As－C 5 % Hr－FP15%
2 層 極暗褐色細砂層 As－C、Hr－FP共に極少

H－32号住居址
1 層 暗褐色細砂層 As－C極少 Hr－FP10%
2 層 極暗褐色細砂層 As－C 5 % Hr－FP20%
3 層 暗褐色細砂層 As－C極少 Hr－FP10%

H－32号住居址竈
a 層 暗褐色細砂層 Hr－FP 5 % 焼土粒 5 %
b 層 極暗褐色細砂層 Hr－FP極少 焼土粒10%

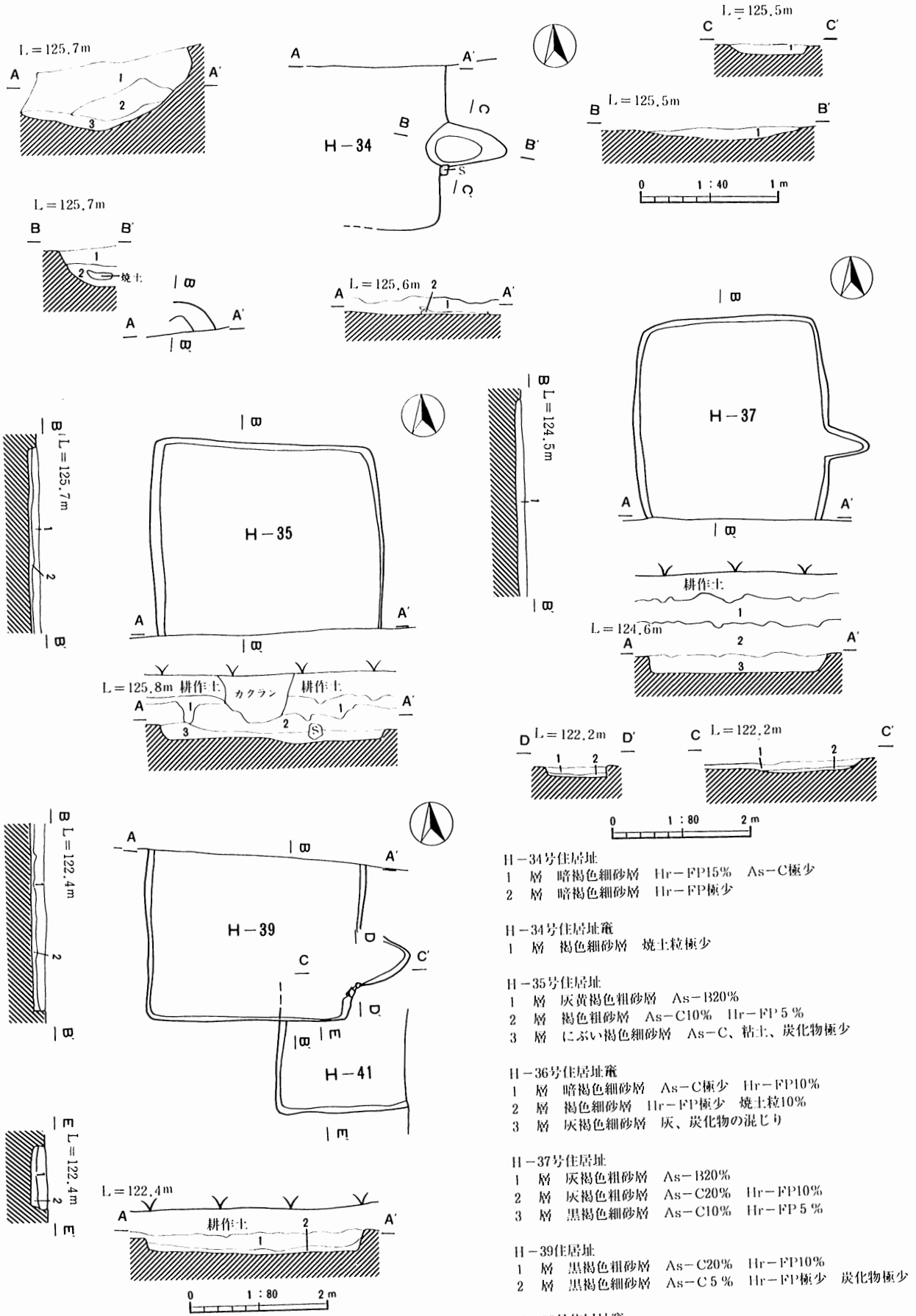
H－33号住居址
1 層 灰褐色粗砂層 As－B20%
2 層 にぶい褐色粗砂層 As－C15% Hr－FP10%
3 層 褐色粗砂層 As－C 5 % Hr－FP極少
4 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム土の混じり

H－33号住居址竈
1 層 極暗褐色細砂層 Hr－FP極少 焼土粒10%
2 層 黒褐色細砂層 Hr－FP極少 灰混じり

H－34号住居址
1 層 褐色細砂層 粘土粒の混じり
2 層 暗褐色細砂層 Hr－FP極少

H－40号住居址
1 層 黒褐色粗砂層 As－C10% Hr－FP 5 % 粘土粒 5 %
2 層 黒褐色細砂層 As－C 5 % 粘土粒極少

Fig. 11 H－29・30, 31, 32, 33, 40号住居址



H－34号住居址
1 層 暗褐色細砂層 Hr－FP15% As－C極少
2 層 暗褐色細砂層 Hr－FP極少

H－34号住居址竈
1 層 褐色細砂層 焼土粒極少

H－35号住居址
1 層 灰黄褐色粗砂層 As－B20%
2 層 褐色粗砂層 As－C10% Hr－FP 5 %
3 層 にぶい褐色細砂層 As－C、粘土、炭化物極少

H－36号住居址竈
1 層 暗褐色細砂層 As－C極少 Hr－FP10%
2 層 褐色細砂層 Hr－FP極少 焼土粒10%
3 層 灰褐色細砂層 灰、炭化物の混じり

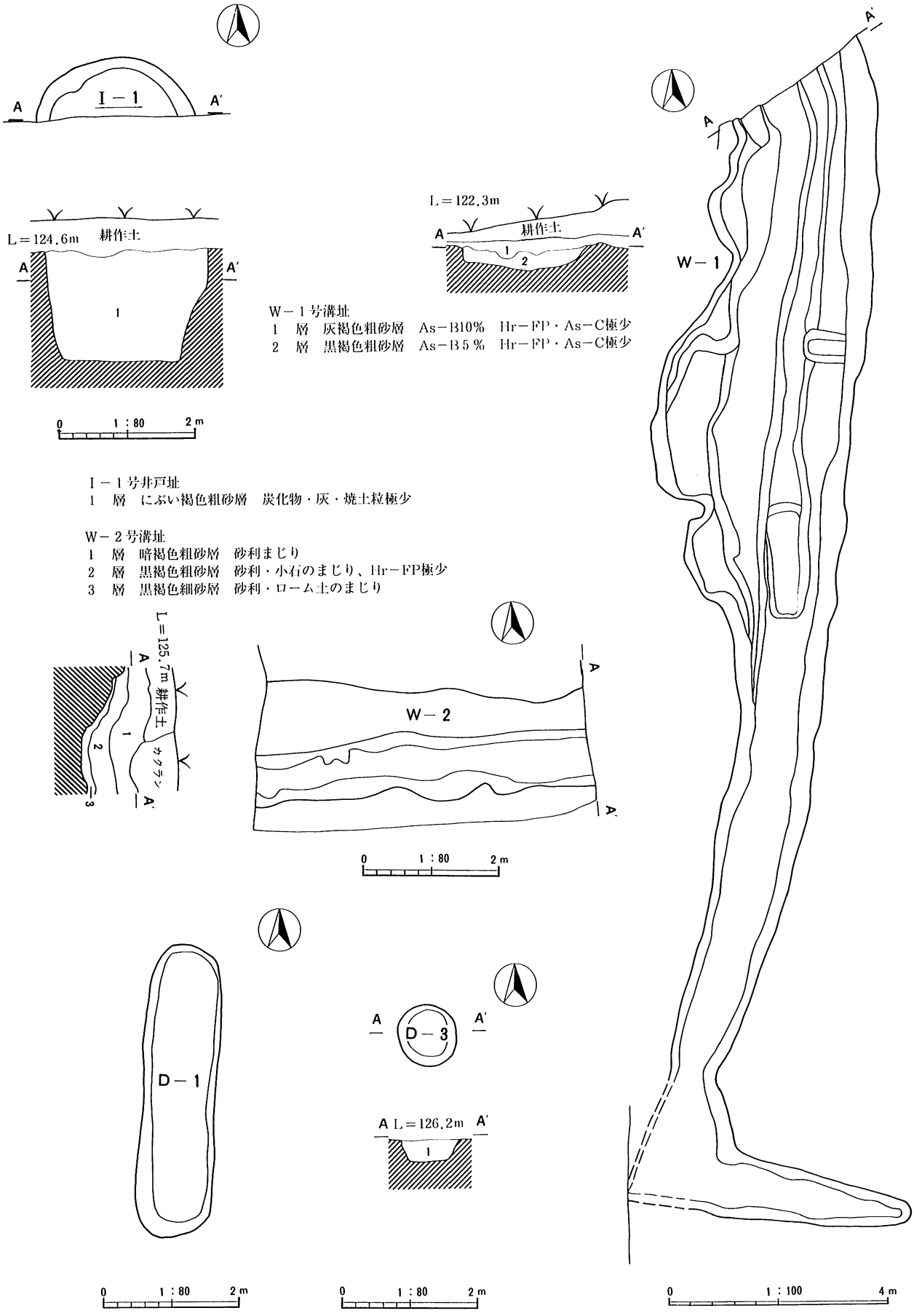
H－37号住居址
1 層 灰褐色粗砂層 As－B20%
2 層 灰褐色粗砂層 As－C20% Hr－FP10%
3 層 黒褐色細砂層 As－C10% Hr－FP 5 %

H－39住居址
1 層 黒褐色粗砂層 As－C20% Hr－FP10%
2 層 黒褐色細砂層 As－C 5 % Hr－FP極少 炭化物極少

H－39号住居址竈
1 層 暗赤褐色粗砂層 As－C 5 % 焼土粒10% 炭化物極少
2 層 暗青灰微砂層 灰、炭化物の混じり

H－41号住居址
1 層 暗褐色粗砂層 As－C10% Hr－FP 5 %
2 層 黒褐色細砂層 As－C 5 % Hr－FP極少

Fig. 12 H－34, 35, 36, 37, 39・41号住居址



W－1号溝址
1　層　灰褐色粗砂層　As－B10%　Hr－FP・As－C極少
2　層　黒褐色粗砂層　As－B5%　Hr－FP・As－C極少

I－1号井戸址
1　層　にぶい褐色粗砂層　炭化物・灰・焼土粒極少

W－2号溝址
1　層　暗褐色粗砂層　砂利まじり
2　層　黒褐色粗砂層　砂利・小石のまじり、Hr－FP極少
3　層　黒褐色細砂層　砂利・ローム土のまじり

D－3号土坑
1　層　灰褐色粗砂層　As－Bと褐色土の混じり

Fig. 13　W－1，2，D－1，2，I－1

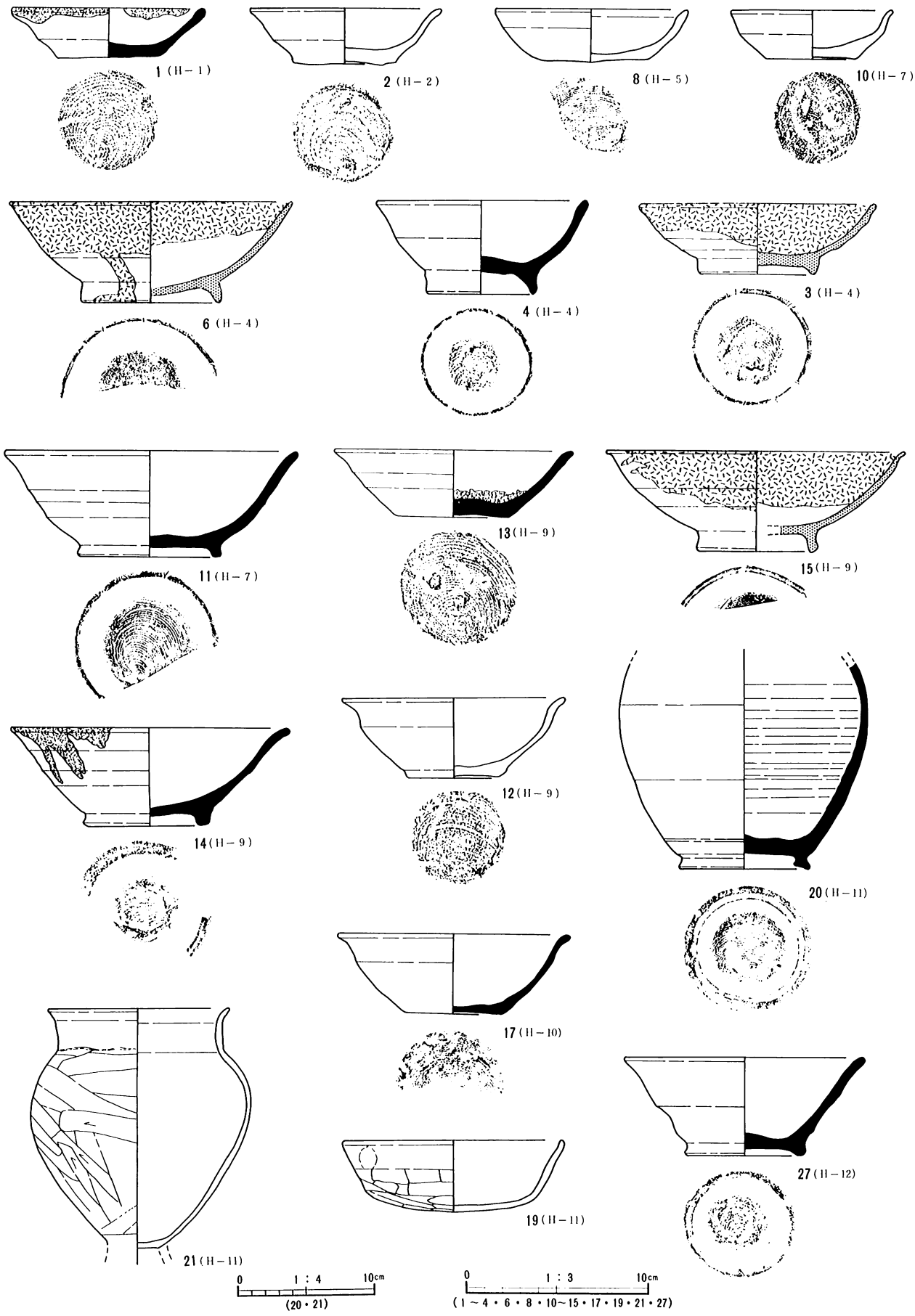


Fig. 14　H－1・2・4・5・7・9～12号住居址出土の土器

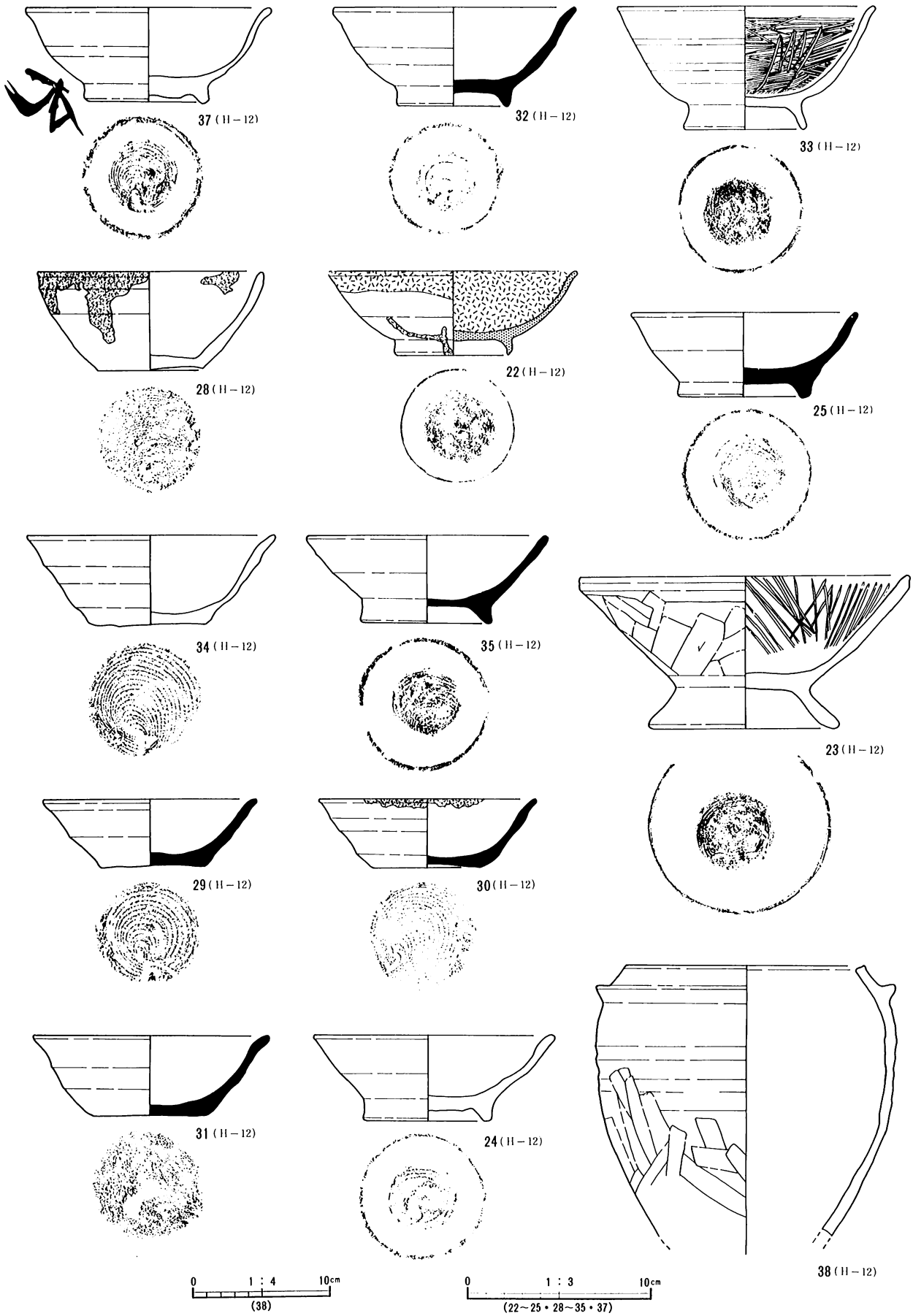


Fig. 15　H－12号住居址出土の土器

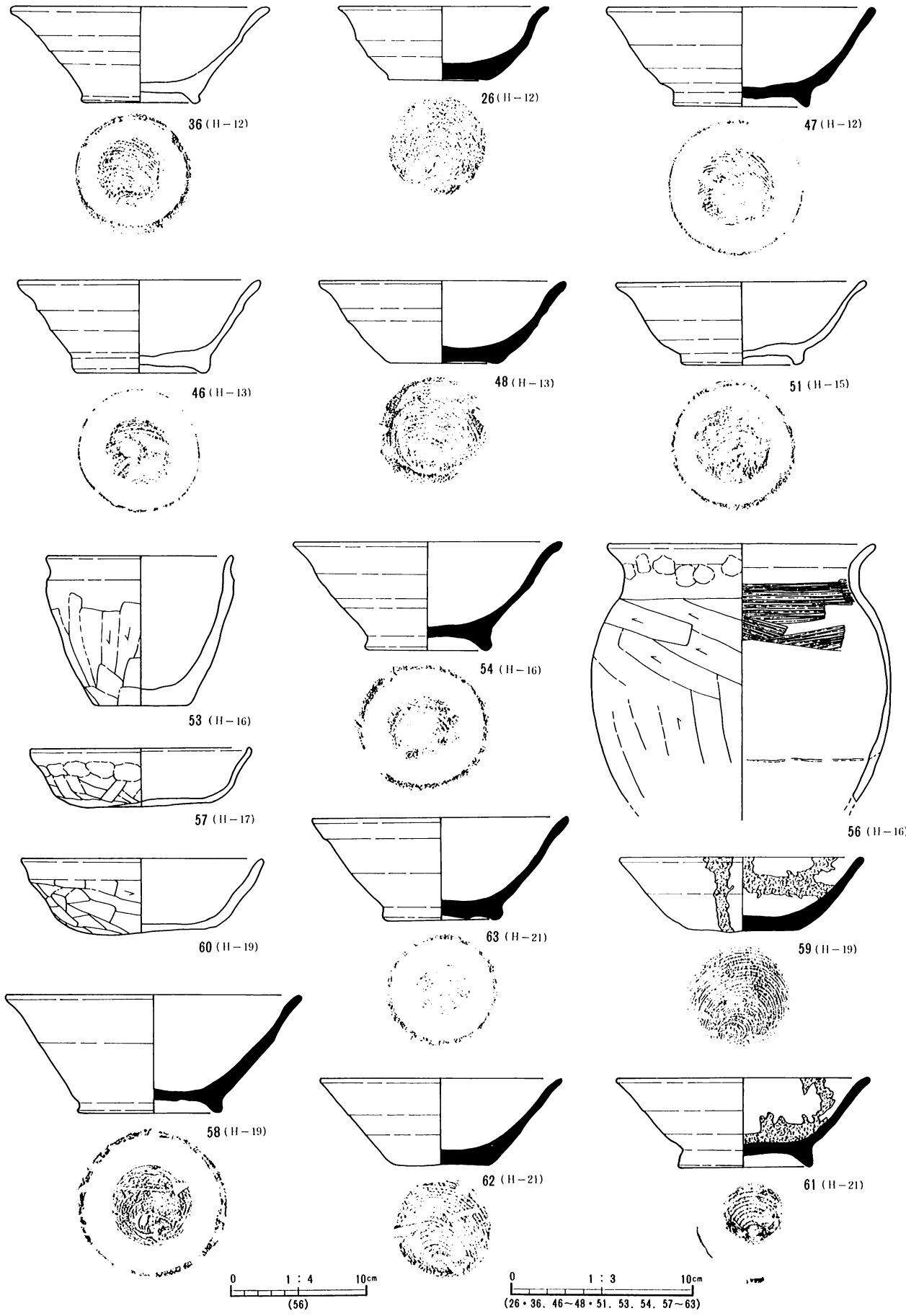


Fig. 16 H－12・13・15・16・17, 19, 21号住居址出土の土器

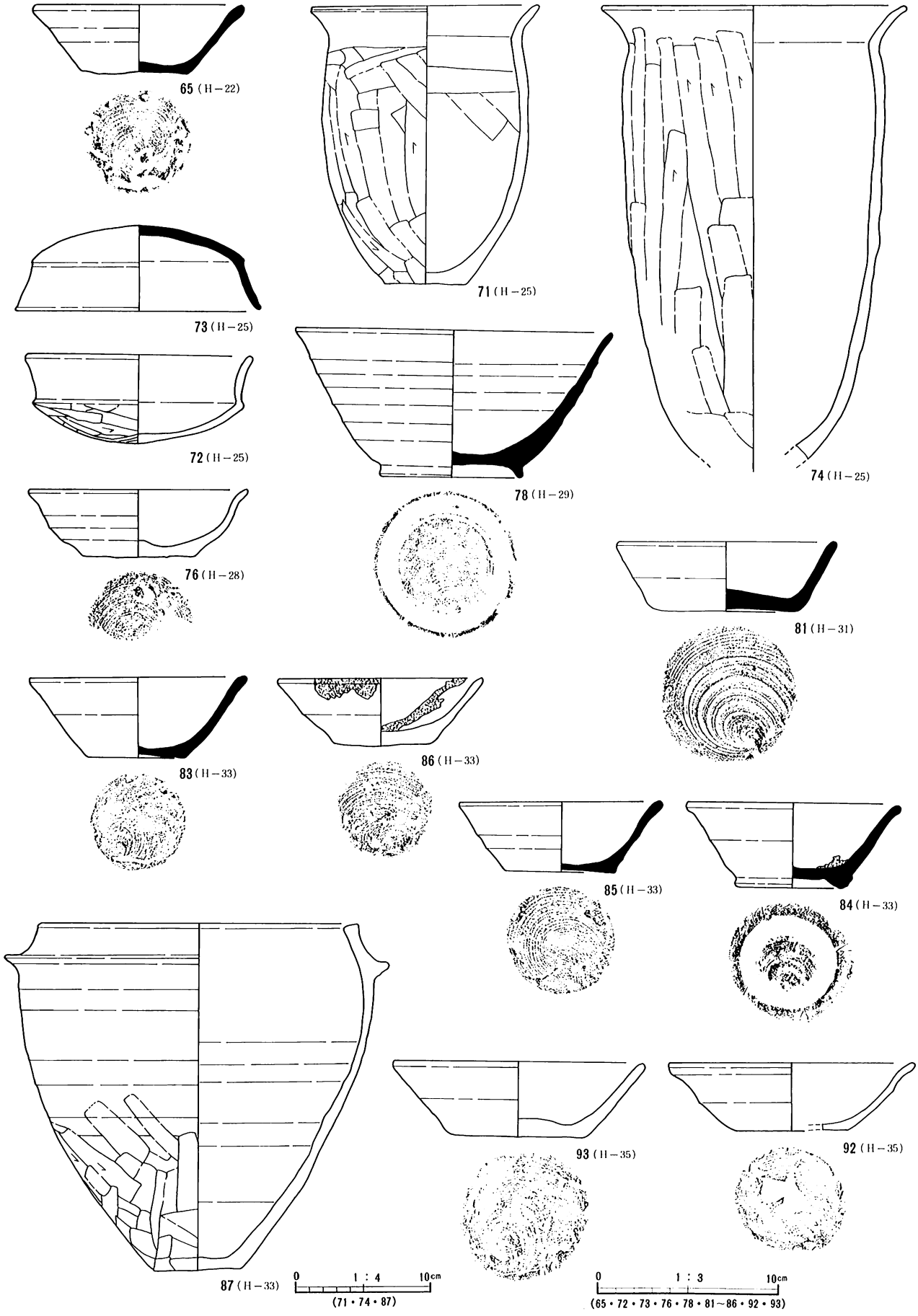


Fig. 17　H－22・25・28・29・31・33・35号住居址出土の土器

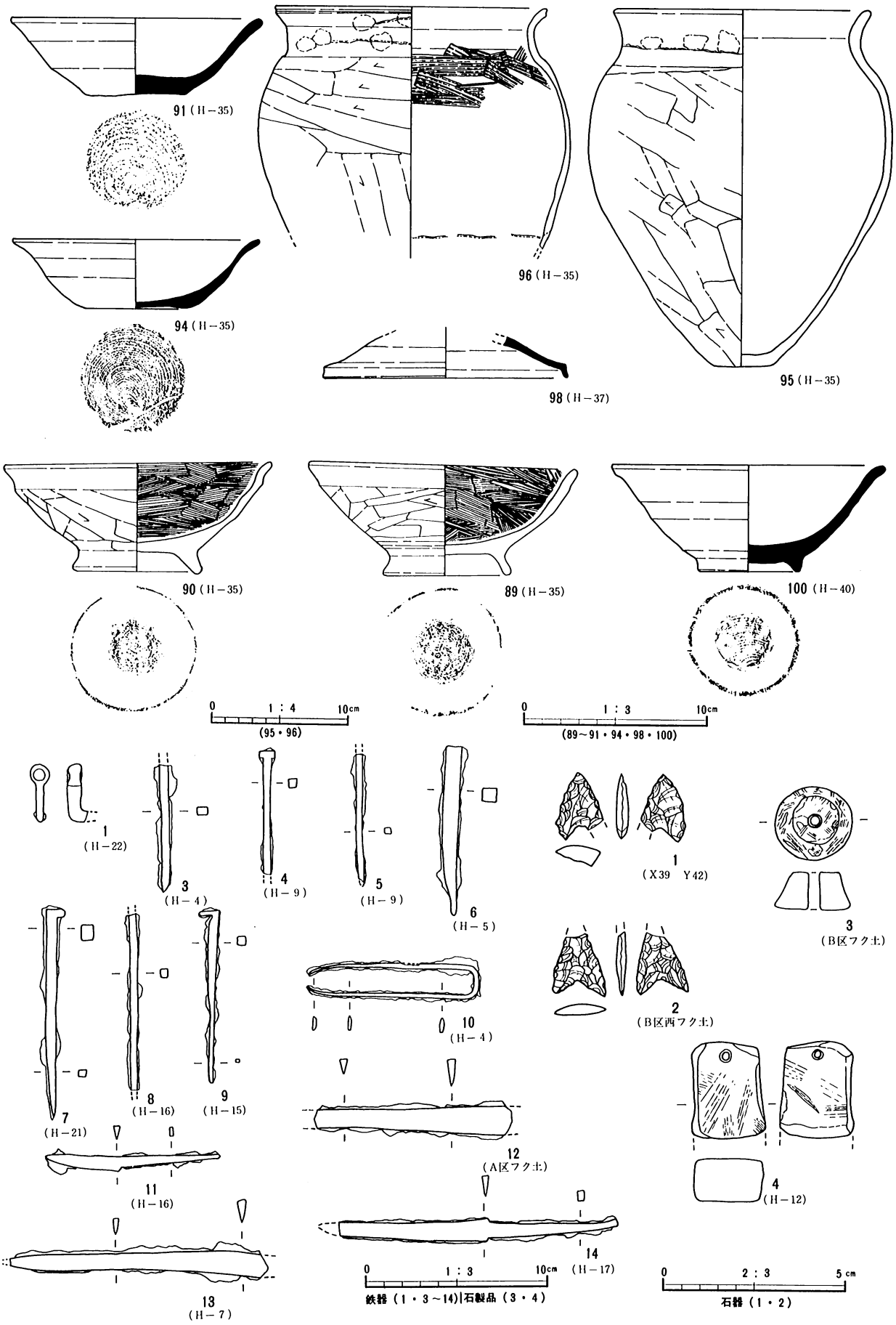


Fig. 18　H－35・37・40号住居址出土の土器，金属製品，石製品

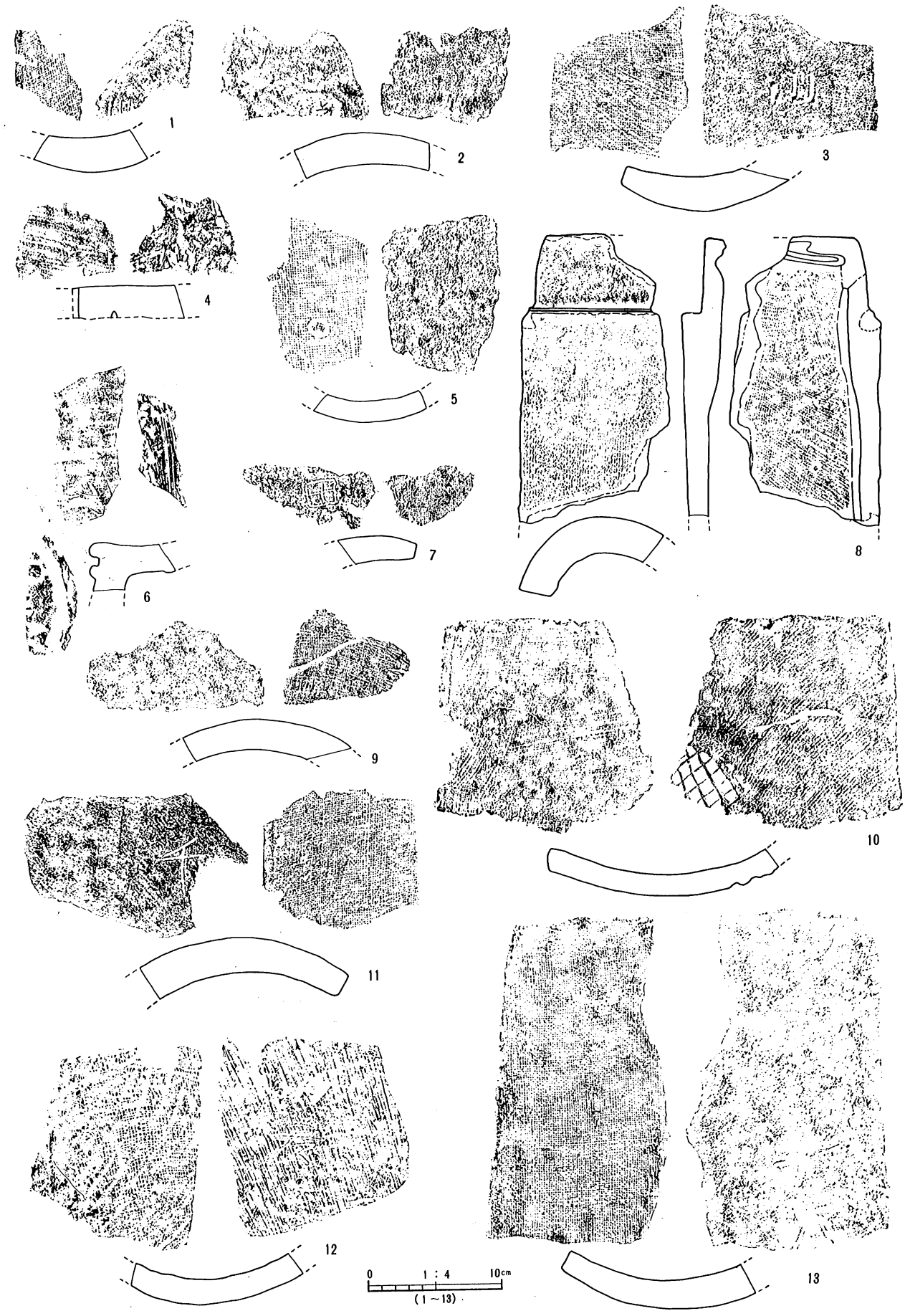
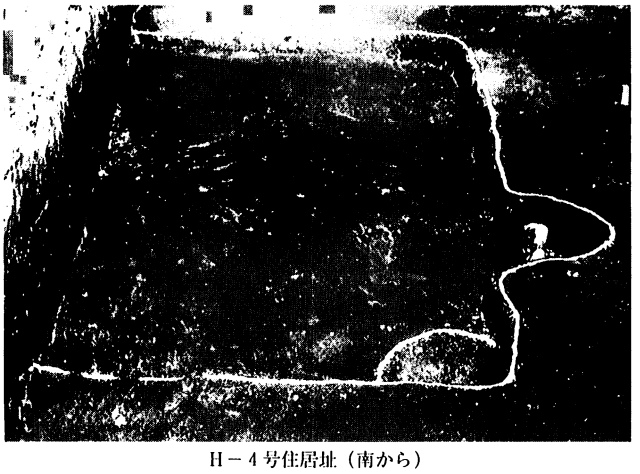


Fig. 19 瓦

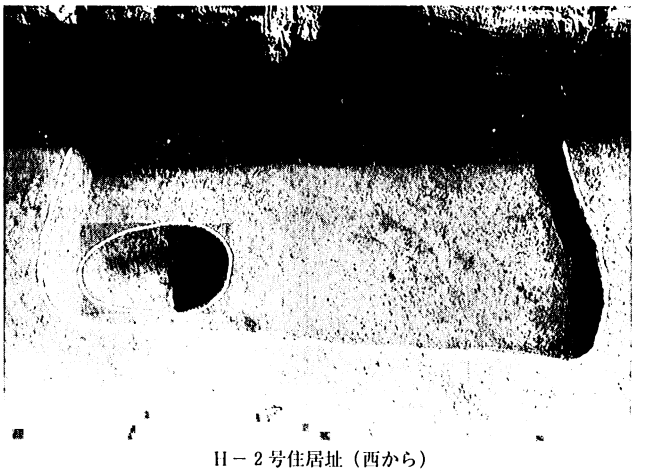
遺跡全景（北方の上野国分寺跡を望む）



H－4号住居址（南から）

H－4号住居址カマド（西から）

H－4号住居址遺物出土状態（西から）

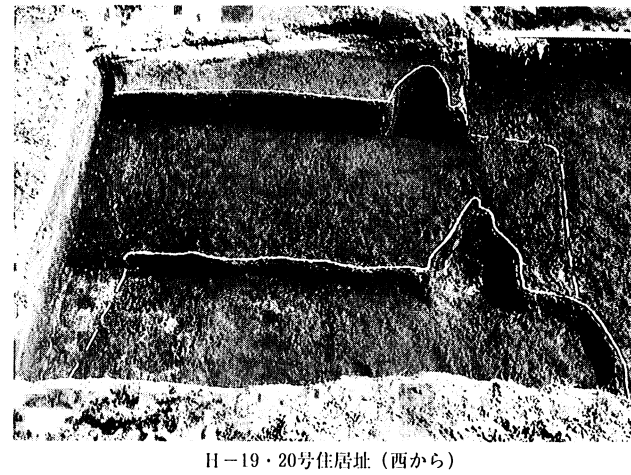


H－2号住居址（西から）

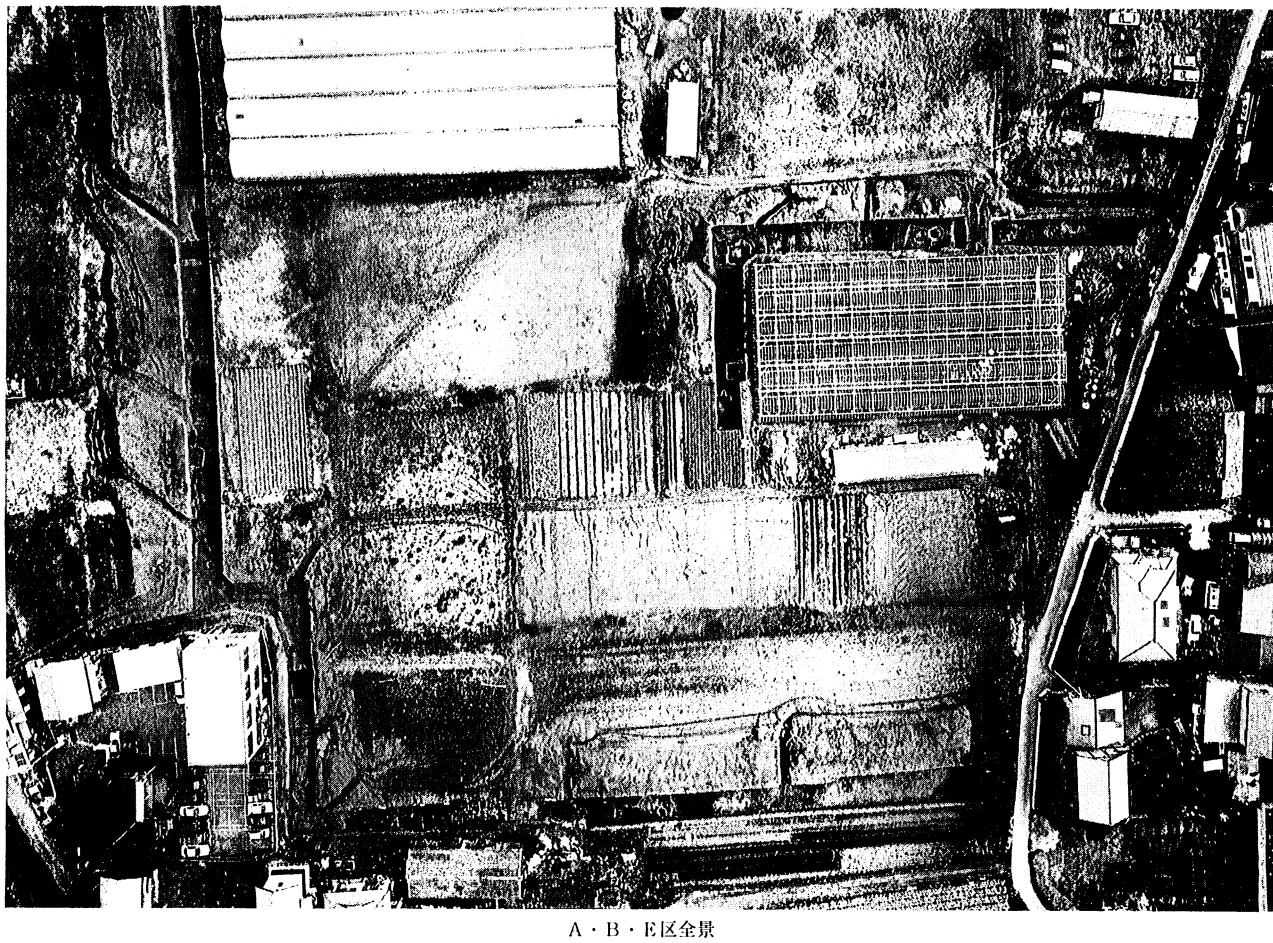
H－9号住居址遺物出土状態（東から）

H－15号住居址カマド（西から）

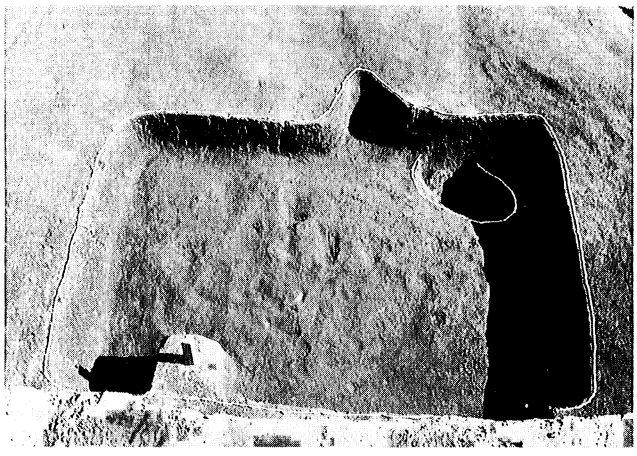
H－16号住居址（西から）



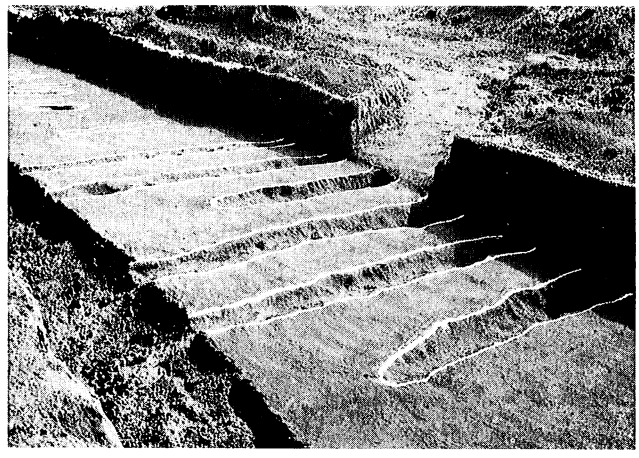
H－19・20号住居址（西から）



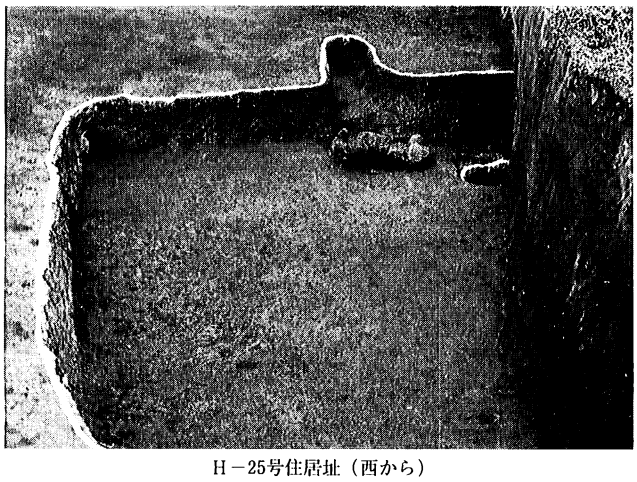
A・B・E区全景



H－21号住居址（西から）



平安の畑作址（北西から）

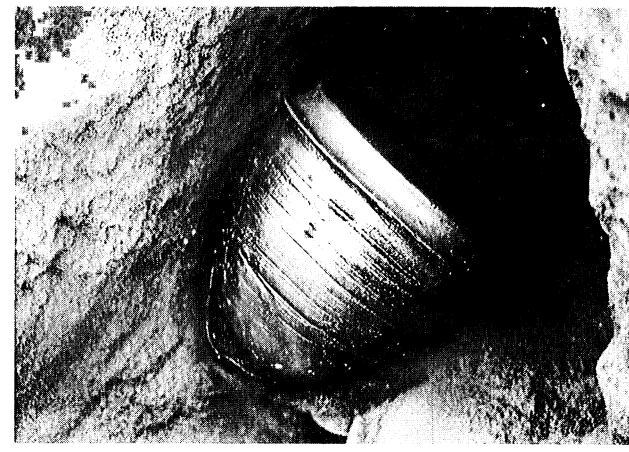


H－25号住居址（西から）

H－25号住居址カマド（西から）

H－12号住居址遺物出土状態（北から）

H－33号住居址カマド（北西から）



H－33号住居址遺物出土状態（北西から）

H－39号住居址（西から）

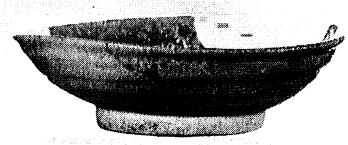
発掘を終えて

H－22・28号住居址（西から）

H－12号住居址出土土器

1
H－4

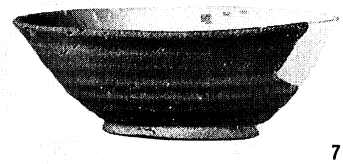
2
H－2



3
H－4

4
H－4

5
H－4



7
H－4

10
H－7

12
H－9

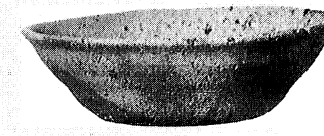
14
H－9

13
(H－9)

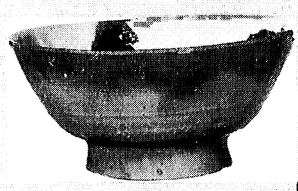
21
(H－11)

19
(H－11)

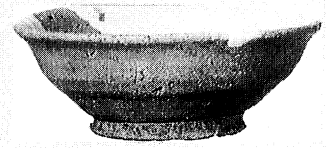
23
(H－12)



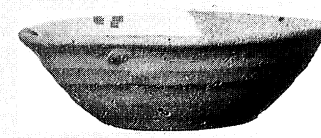
30
(H－12)



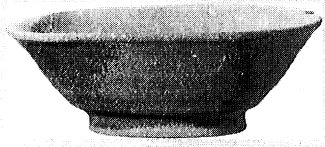
33
(H－12)



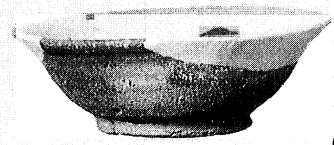
37
(H－12)



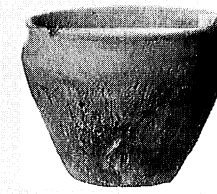
46
(H－13)



47
(H－13)

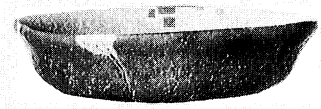


51
(H－15)

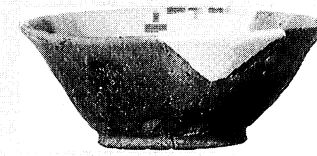


53
(H－13)

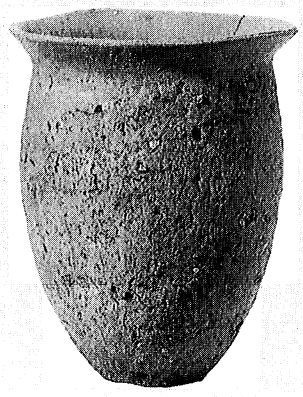
54
(H－16)



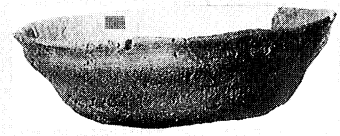
57
(H－17)



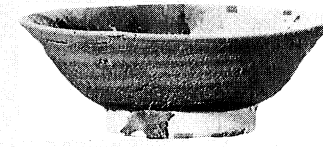
58
(H－19)



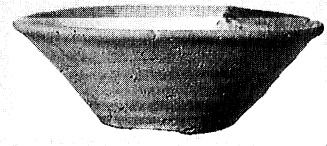
71
(H－25)



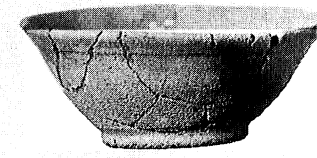
60
(H－17)



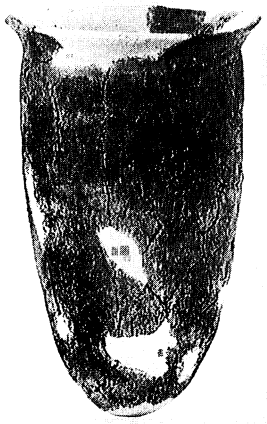
61
(H－21)



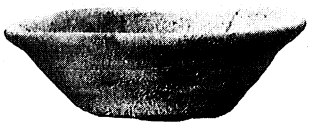
62
(H－21)



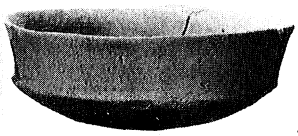
63
(H－21)



74
(H−25)

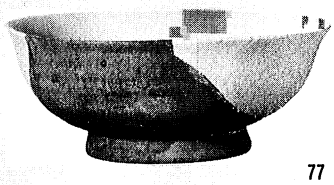


65
(H−22)

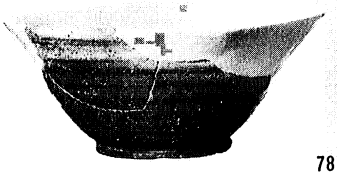


72
(H−25)

73
(H−25)



77
(H−28)



78
(H−29)

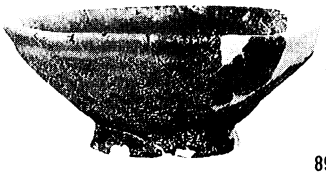
81
(H−31)

87
(H−33)

84
(H−33)

85
(H−33)

86
(H−33)

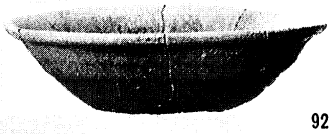


89
(H−35)

90
(H−35)

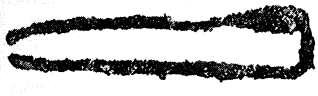
95
(H−35)

9
(H−35)

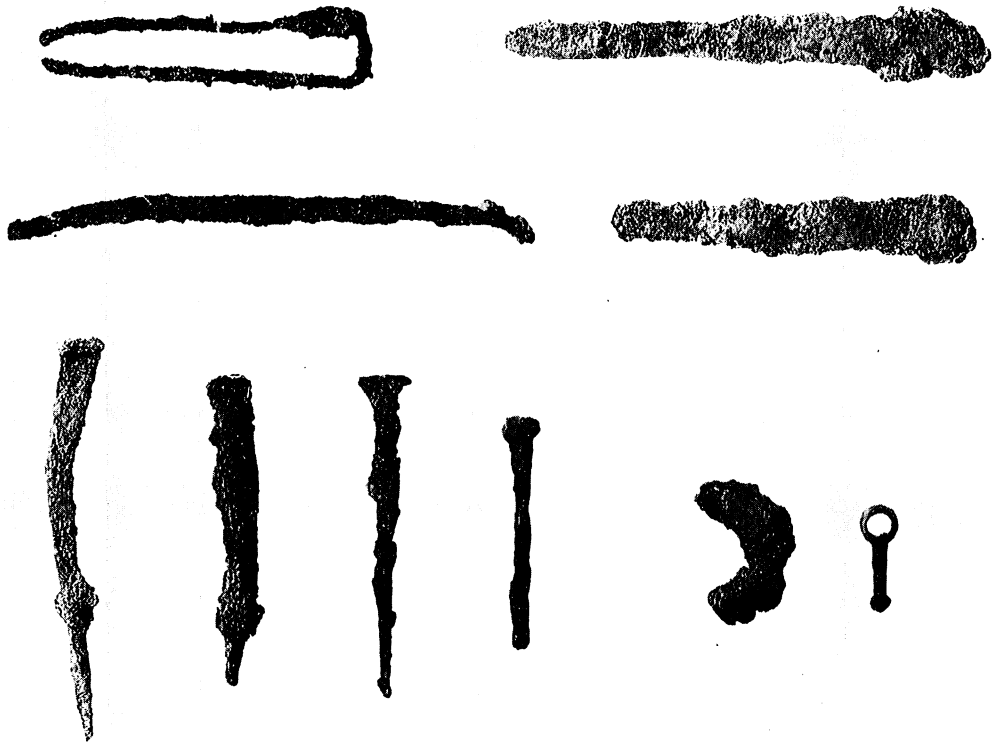


92
(H−35)

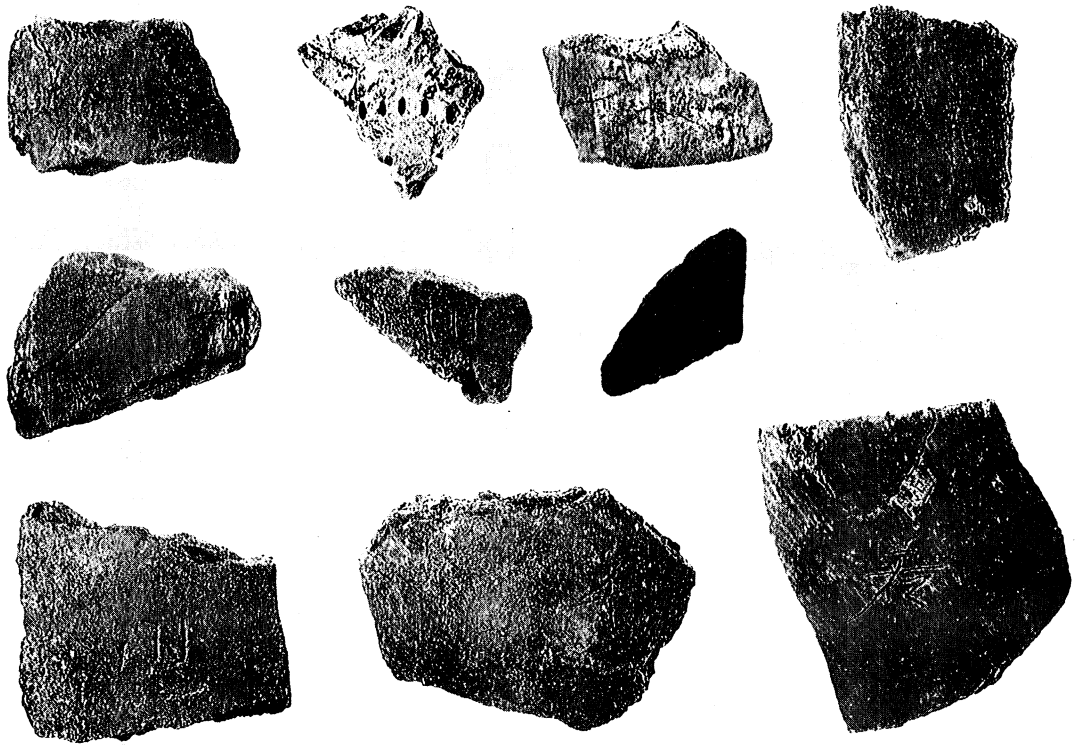
100
(H−40)



H−4



1．鉄器



2．瓦

抄　　録

フリガナ	コウズケコクブンジサンドウイセキ
書名	上野国分寺参道遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊藤　仁志　　吉田　聖二
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦1997年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
コウズケコクブンジサンドウ 上野国分寺参道	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社	10201	8A77	36°23′19″	139°01′30″	19960919 19961220	3,635㎡	土地改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
上野国分寺参道遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安	竪穴住居址41軒 溝址2条、土坑3基ほか	縄文土器、須恵器、土師器、瓦、鉄器等
特記事項	毛抜き型鉄製品（H－4号住居址）			

上野国分寺参道遺跡

平成9年3月17日　印刷
平成9年3月25日　発行
編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－4
TEL　027－231－9531